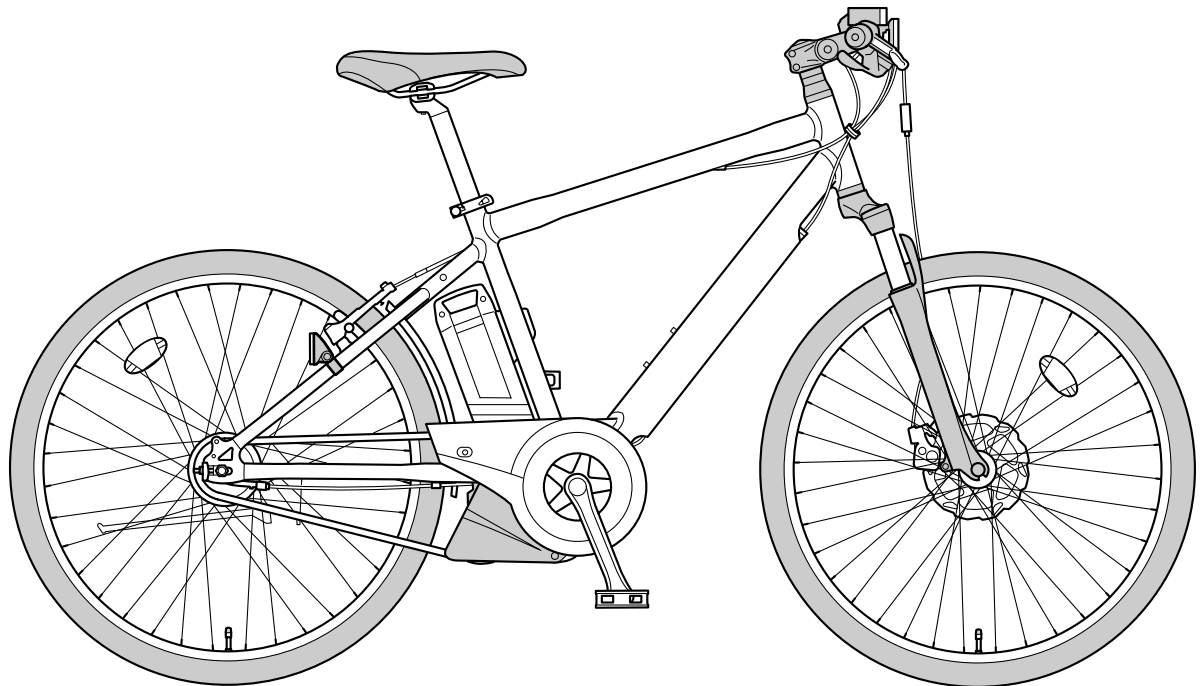


REAL STREAM (リアル ストリーム) (RS615) 取扱説明書



お願い

- 納車時に販売店から、REAL STREAM の使用方法について十分に説明を受けてください。
- 本書と保証書／点検・整備の記録は、紛失しないよう大切に保管し、ご活用ください。
- 盗難補償には加入手続きが必要です。盗難補償書に記載の期日（購入後 20 日）までにホームページからオンライン登録するか、またはロビンフッド手帳（保証書・盗難補償書）に記載の QR コードから携帯電話でオンライン登録する、またはロビンフッド手帳のブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）に必要事項を記入の上、投函してください。
- REAL STREAM を他の人にお譲りになる場合は、取扱説明書も一緒にお渡してください。
- 保証書は「販売店名、お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店からお受け取りください。記入がもれている場合は、販売店にご請求ください。



この自転車は一般用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないようお願いします。

仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。

もくじ

はじめに

前書き	4
-----------	---

安全運転のために

REAL STREAM を 安全に使用するために	5
自転車 safely 乗るために	11
自転車の交通ルールについて	18

REAL STREAM について

REAL STREAM のしくみ	21
各部の名称	22

バッテリーについて

バッテリーの特徴	23
バッテリーの交換について	24
バッテリーや充電器を使うとき	26

充電しましょう

充電に適した環境	29
バッテリーの脱着	30
充電のしかた	32
充電状態の見かた	33
充電時間の目安	34

乗る前に

乗車前点検	36
バッテリー残量の確認	40
バッテリー残量の表示と目安	41
走行モードの切り替えかた	43
走行モードの使い分けかた	44
充電あたりの走行できる距離	46

乗りましょう

発進のしかた	48
変速のしかた	50
液晶マルチファンクションメーター の表示	52
ライト点灯のしかた	56
荷物の積載	58
アシストが作動しない環境	59
駐輪のしかた	60
クイックリリースハブ車輪の 取り付けかたと取り外しかた	61
車速センサーについて	64

サスペンションホーク

サスペンションホークの 取り扱いについて	65
-------------------------------	----

お手入れと保管

お手入れのしかた	67
保管のしかた	70

ごぞんじですか？

もしもこんなときは	72
定期点検／ 普通自転車点検整備済み TS マーク	77
保証制度／基準適合標章 (TS マーク)	78
BAA マーク	79
防犯登録／盗難補償／保険について	81
スペアキーについて	82
点検・整備の記録	83
製品仕様	84

前書き

このたびは、REAL STREAM をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。
REAL STREAM はパワーアシストシステムを搭載している自転車です。自転車に乗れる方なら手軽に乗ることができます。

しかし、自転車とは異なる点もございますので、お乗りいただく前に必ず、本書をお読みいただき、安全かつ軽快にご使用ください。

お子様がお使いになる場合は、保護者の方が本書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。

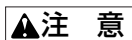
本書では、正しい取り扱いおよび点検・整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで区分しています。



安全にかかわる注意情報を意味しています。



取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。



取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。



正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。



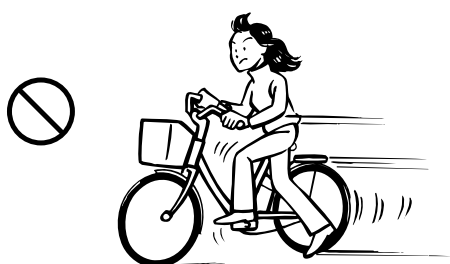
安全上してはいけない「禁止」内容を意味しています。

REAL STREAMを安全に使用するために

警告

けんけん乗りをしない

必ずサドルにまたがって、発進してください。けんけん乗りをした場合、REAL STREAMのパワーアシストが作動して自転車だけが前に進み、体が残される可能性があります。また、転倒や接触事故につながるおそれがあります。

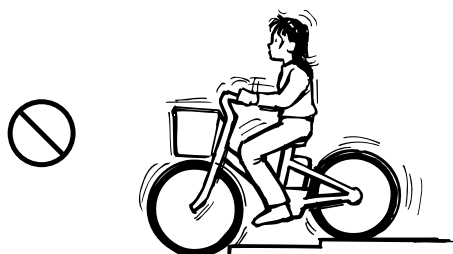


電動アシスト自転車の発進特性に不慣れなうちは、車通りや人通りの多い一般道で乗らない

- 電動アシスト自転車は普通の自転車より軽いペダル踏力で発進できますが、慣れないうちに普通自転車と同じ感覚でペダルを強く踏み込むと、普通自転車以上に加速するため、驚いて転倒したり衝突したりするおそれがあります。
- 慣れるまでは安全な場所でよく練習しましょう。
- 慣れるまでは「標準モード」でスタートしましょう。
- 無理な走行（スピードの出しすぎ、急坂の走行）をしないでください。年齢や体力に合わせた走行をしましょう。



凹凸の激しいところを走らない (歩道の段差や点字ブロック、溝など)

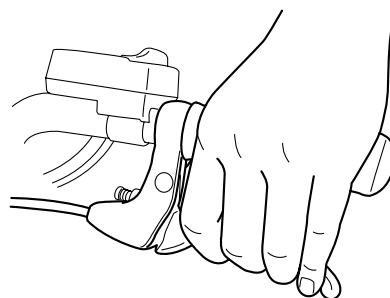


フレームや車輪、またはドライブユニットなどが損傷し、転倒によるけがのおそれがあります。また、タイヤが溝にはまって転倒するおそれがあります。

また点字ブロックでバンドルをとられるおそれがあります。

- 自転車から降りて、押して歩いてください。

停車しているときは、前後輪ブレーキをかける。その際、ペダルに足を乗せない。



不用意にペダルに足を乗せたときなど、REAL STREAMのパワーアシストが作動する場合があります。

- 停車しているときは、前後輪ブレーキをかけ、ペダルに足を乗せないでください。

REAL STREAMを安全に使用するために

警告

夜間走行の前には必ず、バッテリーの残量を確認する

前照灯（ライト）はバッテリーを電源としていますので、バッテリー残量が減少してアシスト走行ができなくなった後、しばらくすると消灯します。消灯後の乗車は衝突や転倒によるけがのおそれがあります。無灯火での走行は法令で禁止されています。夜間走行中に前照灯が消灯した場合は、自転車から降りて押して歩いてください。

異常があるときは乗らない



事故や転倒によるけがのおそれがあります。

- 液晶マルチファンクションメーターのバッテリー残量メーターが点滅（P72）しているなど、異常を発見したらすぐに販売店にご相談ください。

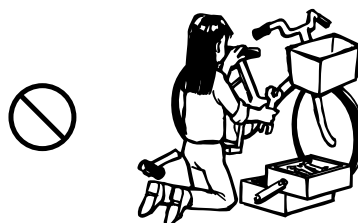
パワーアシストシステム構成部品の分解や注油をしない



故障や誤作動による事故やけがのおそれがあります。

- パワーアシストシステムのパワーユニット部やモーター部、コントローラー、バッテリーなどは大変精密な部品で構成されていますので、分解したり、注油したりしないでください。
- 「故障したかな」と思ったときは、[もしもこんなときは…]（P72～P76）を参照の上、販売店にご相談ください。

自分で改造しない



部品が破損したり、外れたりして転倒によるけがのおそれがあります。

- 修理や、パーツの取り付けは販売店にご相談ください。

アクセサリや交換部品は純正部品以外は使用しない



部品の破損などによりけがのおそれがあります。

- タイヤなどの消耗品やアクセサリなどの部品は、販売店にご相談の上、必ず純正部品を指定して取り付けてください。それ以外の市販品を使用しますと事故や故障の原因になることがあります。また保証の適用が受けられない場合があります。

REAL STREAMを安全に使用するために

⚠ 注 意

■乗る前に必ず乗車前点検をする

- 乗る前には必ず点検を行ってください。(P36～39)
- 不明な点がありましたら販売店にご相談ください。

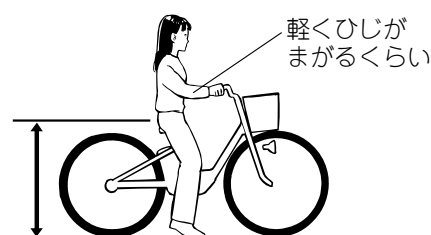
■夜間走行の前には必ず、前照灯(ライト)が点灯することを確認する

■正しい姿勢で走行できるよう調整する

お買い求めの販売店でサドルやハンドルの位置などを自分に合った高さに調整してもらいましょう。

乗車可能最低身長
148cm

両足のつまさきが地面につくくらいのサドルの高さ

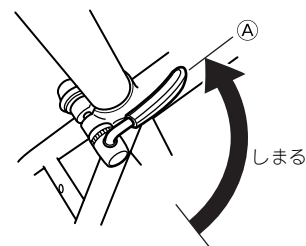
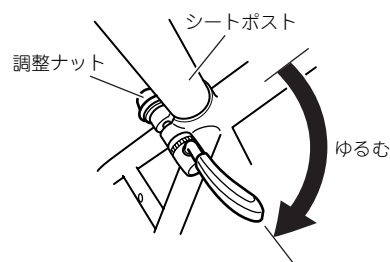


■サドルの高さ調整

●シートピンのレバー操作

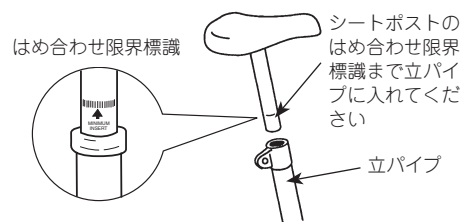
⚠ 注意: クイックレバー式シートピンは、カムレバーを開閉して「締める」「ゆるむ」を行います。カムレバーを回して締め付けるものではありません。

- ①カムレバーを「ゆるむ」の方向に開いて固定をゆるめ、サドルを上下に調整してください。
- ②固定するときは「締める」の方向の ① の位置までカムレバーを閉じて固定します。
- ③カムレバーを閉じるときの力は、レバー先端に 100N (10kgf)～160N (16kgf) の力で閉じれるように、調整ナットの締め具合を調整してください。
- ④シートポストが十分に固定しなかったり途中でレバーが固くて閉じれないときは、もう一度調整ナットの締め具合を調整しなおしてください。



●サドルの高さ限度

⚠ 警告: 最も高くした場合でも、シートポストのはめ合わせ限界標識が見えなくなるまで挿入してください。限界標識が見えていないと、サドル(シートポスト)の折れや抜けにより事故・けがのおそれがあり危険です。



サドルの高さ調整は運転中に行わないでください。

REAL STREAMを安全に使用するために

■アヘッド式・ハンドルステムの調整

この自転車は、一般のヘッド小物、ハンドルステムとは構造が異なります。

1 構造

- ハンドルポストの固定は、後部のクランプボルトで前ホークシステムに固定します。
- ヘッド玉当たり調整は、上部のアンカーボルトの締め付け加減で行う方式です。
- ⚠ **注意：アンカーボルトは固定用ではありません。**
- ハンドルポストの高さ調整は、一般の自転車のようには行えません。

2 ヘッド(ハンドルの回転具合)の調整

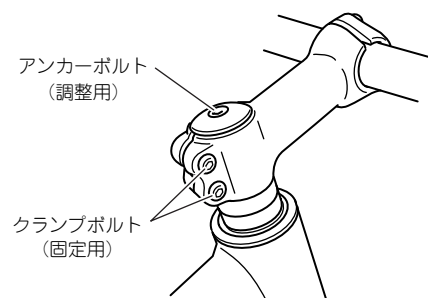
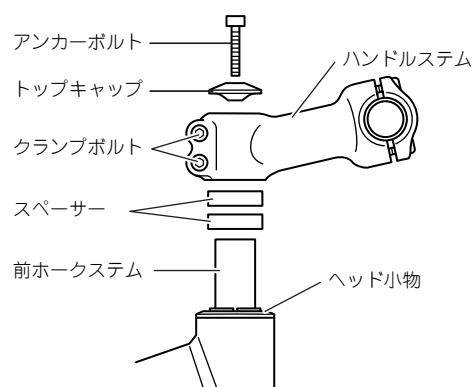
- ① 右図の順序で各部品を仮組みします（製品により仕様は若干異なります）。
- ② ヘッドの回転具合を確認しながらアンカーボルトを締め、ヘッド玉当たり調整を行います。
※この調整をする時、クランプボルトは緩めておいてください。
- ⚠ **注意：アンカーボルトを締めすぎると、ヘッドの回転が重くなり、更に強く締め付けると、トップキャップやアンカーナットが破損するおそれがありますので、絶対に締めすぎないでください。**

締め付トルク目安：2.5N・m (25kgf・cm)

- ③ 前ホークにガタがないことを確認してください。

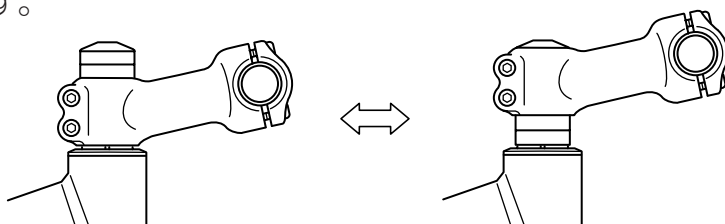
ハンドルステムの固定

- ④ ハンドルバーが前車輪と直角になるように保持し、クランプボルト2本を交互に締め付けていって、ハンドルステムを前ホークシステムに確実に固定します。



3 ハンドルステムの高さ調整

一般自転車のように調整できませんが、スペーサーとの位置を入れ替えることで高さが変わります。



REAL STREAMを安全に使用するために

■ハンドルステムの角度調整

この自転車には、乗車する人の体格や乗車姿勢に応じてハンドル角度の調整ができるハンドルステムを装備しています。ハンドルステム角度調整の操作は以下の手順で行ってください。よくお読みいただき正しくお使いください。

●調整操作のしかた

1 角度固定ボルトを緩めます。(図 1)

アーレンキー（5mm）で角度固定ボルトの頭が出るくらいまで緩める。

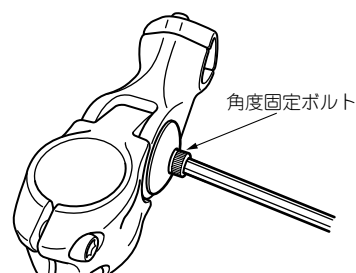


図1

2 角度固定ボルトを押し込みます。(図 2)

アーレンキーで矢印の方向に押し込む。動かない場合はプラスチックハンマーなど傷がつかないもので叩き押し込む。

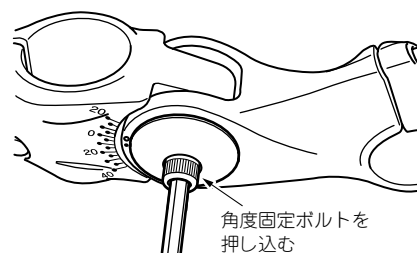


図2

3 角度固定ナットが回転することを確認します。(図 3)

角度固定ナットのギザギザが図のように目視でき、角度固定ナットが回転可能かチェックする。回転しない場合は角度固定ボルトを緩め押し込む。

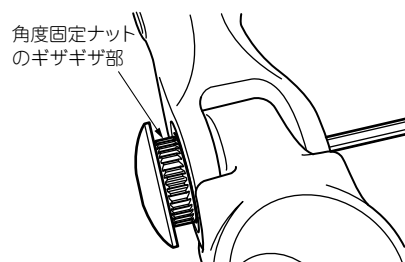


図3

4 角度を決めます。(図 4)

目盛りの範囲内で角度を調整する。

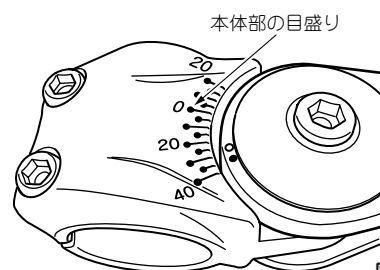


図4

REAL STREAMを安全に使用するために

5 本体と角度固定ナットのギザギザ部を嵌合します。

角度固定ボルトを締め付けながらギザギザ部がきちんと噛み合っていることを確認する。

6 角度固定ボルトを締め付け固定します。

締付トルク：9～11N・m（90～110kgf・cm）

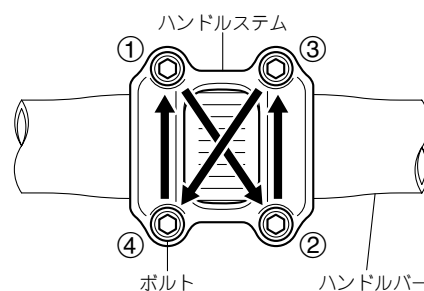
7 ハンドルステムの確認をします。

締め付け後、ガタツキなど異常がないか、確実に固定していること確認してください。

■4 本ボルト止めハンドルステム固定方法

ハンドルバーをハンドルステムに固定する時は、以下要領にて締め付けてください。

1 右図の①～④の順に、4本のボルトを少しずつ締め付けていってください。

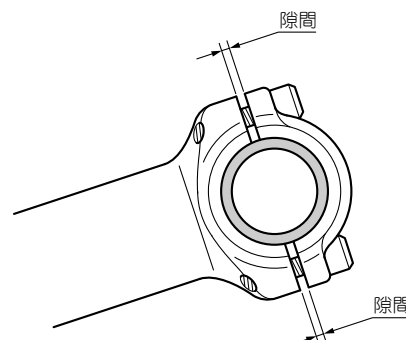


2 最終的に下記トルクまで締め付け、確実にハンドルバーを固定してください。

<標準締付トルク>

M5 ネジ：5N・m, (50kgf・cm)

⚠ 注意：①～④の隙間が均等になるように、ボルトを締め付けてください。



自転車を安全に乗るために

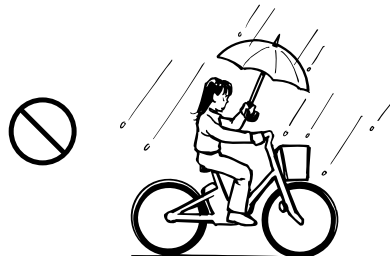
警告

二人乗りはしない



自転車の二人乗りは道路交通法で禁止されています。転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

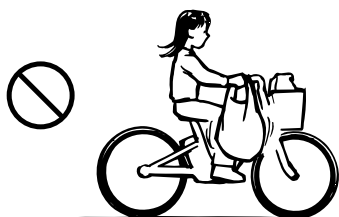
手放しや傘をさしながらの運転はしない



バランスがとりにくくなり、転倒によるけがのおそれがあります。

●合図する時以外は両手でしっかりハンドルを握って運転してください。

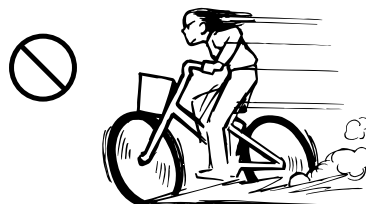
手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつないだりしない



荷物やひもが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩して転倒し、けがのおそれがあります。

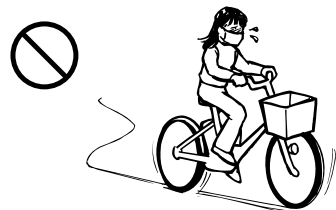
●荷物は、バスケットやリヤキャリアに積んでください。

乱暴な乗りかたはしない (アクロバットの様な乗りかたや急発進、急旋回など)



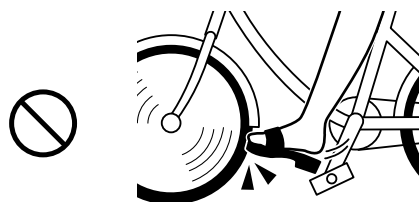
転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

飲酒時やかぜ薬など服用時、および体調が優れないときは乗らない



運動機能が低下し、衝突などによるけがのおそれがあります。

滑りやすい靴(サンダルなど)や、かかとの高い靴などを履いて乗らない



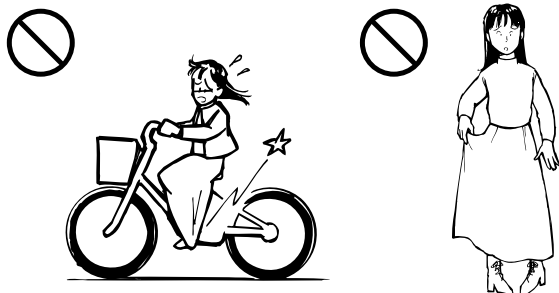
足がペダルから外れて、靴(サンダルなど)が前輪に接触するとハンドル操作ができなくなったり、前輪に靴(サンダルなど)が巻き込まれて転倒するおそれがあります。

自転車を安全に乗るために

警告

車輪やチェーンに巻き込まれやすい
服装は避ける

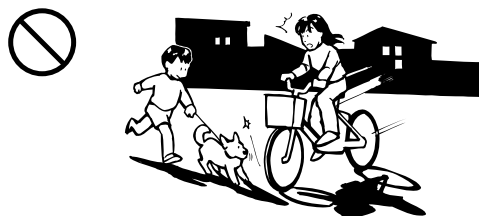
(長いスカートや長いマフラーなど)



転倒によるけがのおそれがあります。

- すそが広がっているズボンはバンドやゴムで留めるようにしてください。

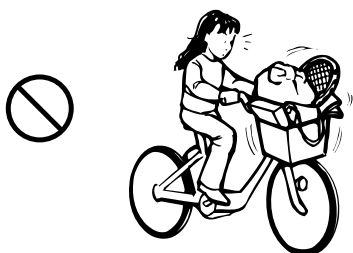
視界の悪いときは、無灯火で乗らない
(夜間やトンネル内や霧など)



見通しが悪くなり、また他の通行者から見えづらくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

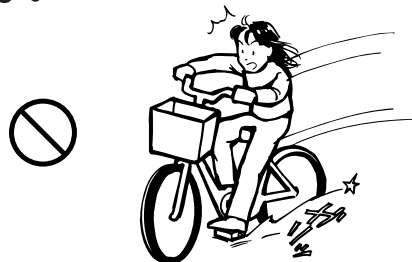
- 夜間道路を走るとき、及びトンネル内を走るときには必ず前照灯を点灯してください。もし前照灯がつかないときは、押して歩いてください。

積載条件から外れる荷物を積まない
(P58)



バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

カーブで曲がる側のペダルを
下げない



ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

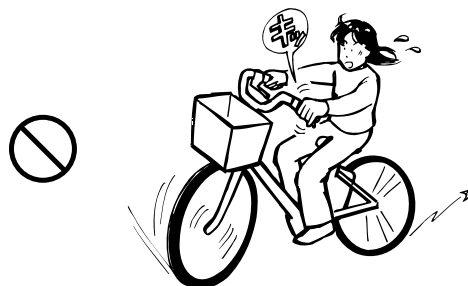
滑りやすいところでは乗らない
(積雪や凍結した道、濡れている鉄板やマンホール、ぬかるみ、歩道の点字ブロックなど)



スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

- 自転車から降りて、押して歩いてください。

片側だけのブレーキ操作はしない



スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

- ブレーキは必ず前後ともにかけてください。

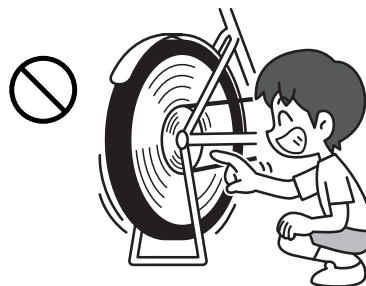
自転車を安全に乗るために

警告

急な登り坂では、自転車から降り押し歩いて歩く

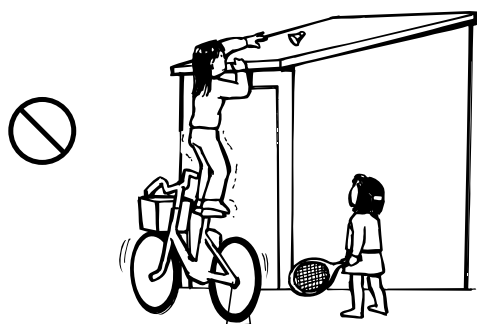
登り坂では前輪が浮いたり、ハンドルがとられやすくなり、転倒し事故・けがをするおそれがあります。

車輪・チェーンなどの回転部に手や足、ものなどを近づけない
また、子供を近づけさせない



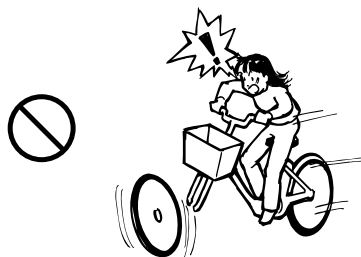
車輪やチェーンに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

踏み台代わりなど走行以外に使わない



転倒によるけがのおそれがあります。

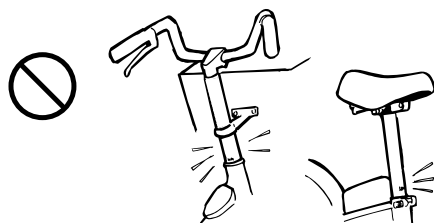
車輪の脱着やハンドル、サドルの調整後、締め付けを確認せずに乗らない



車輪やサドルが外れて転倒によるけがのおそれがあります。

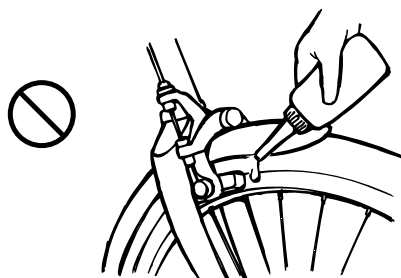
●必ず乗る前に点検してください。

サドルやハンドルは引き上げ限界線が見える状態で乗らない



サドルやハンドルが折れて衝突や転倒を招き、けがのおそれがあります。

ブレーキの制動面やタイヤ、リムに注油しない

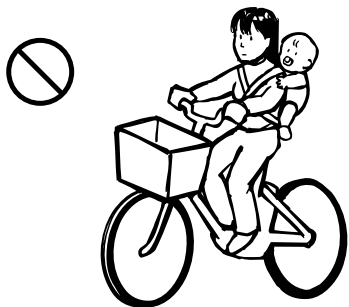


ブレーキが効かなくなり、衝突によるけがのおそれがあります。

自転車を安全に乗るために

警告

この自転車には、幼児を乗せない



- この自転車にはチャイルドシートは取り付けできません。
- 幼児を同乗させると、安定が悪くなり、転倒によるけがのおそれがあります。

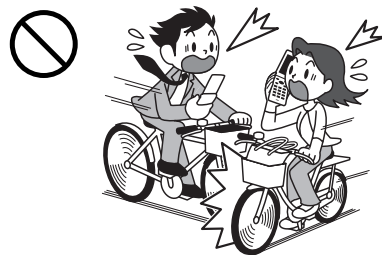
自転車が完全に止まってから降りる

自転車が完全に止まる前に飛び降りるようにして降りると、バランスを崩して転倒やけがのおそれがあります。

整備不充分のブレーキのままで走行しない（P37、P39、P77）

- 赤さびになったケーブル、ほつれたケーブル、大きく摩耗したブレーキシューなどは制動力を低下させ、衝突・転倒のおそれがあります。速やかに販売店で、点検・交換をしてください。
- 乗る前には安全な広い場所で、前後のブレーキが正しく作動するか必ず確認してください。
- ブレーキレバーの握りしろについては「乗車前点検」の項目を参照してください。
- 雨天のときは、晴天のときより制動距離が長くなります。スピードを控えて、早めの滑らかなブレーキ操作をしてください。

走りながら携帯電話をかけたり、メール操作などをしながら走行することは道路交通法で禁止されています。

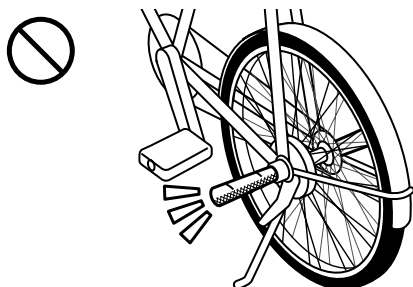


片手運転と前方不注意により、衝突・転倒のおそれがあります。

自転車を安全に乗るために

警告

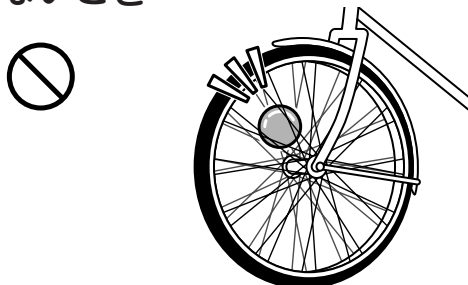
ハブステップを使用しないこと



後ハブ軸にハブステップを取付け、2人乗りで使用すると、ハブステップが破損して転倒したり、事故を起こす危険があります。

歩行者に危害を及ぼすおそれのある突起物を装着しないこと。

スポークの間にボールなどを入れて走らないこと



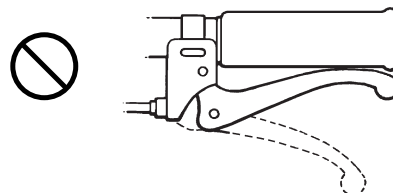
車輪とフレーム、前ホークなどのすき間にはさまって転倒するおそれがあります。

傘やステッキなどを車体に差し込んだり、ハンドルにバッグや荷物をぶら下げて走らないこと



車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつくて、転倒や事故・けがのおそれがあります。

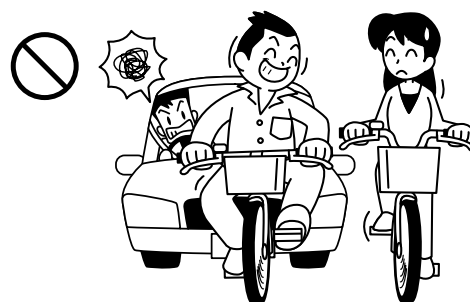
ブレーキレバーの遊びが大きくないこと



ブレーキワイヤは使用初期にのびて、ブレーキレバーの遊びが大きくなることがあります。

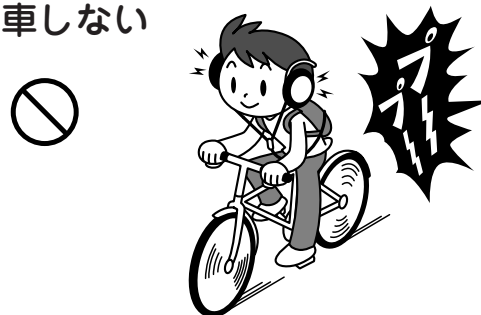
ブレーキレバーの遊びが大きいものは、ブレーキが効かなくなることがあり、危険ですので、すぐに販売店で点検を受けてください。

2人以上で通行するとき、横に並んで通行しない



自転車の並進は道路交通法で禁止されています。他の交通の妨げになったり、接触して、事故を起こす危険があります。1列で通行しましょう。

イヤホン・ヘッドホンを使用しながら乗車しない



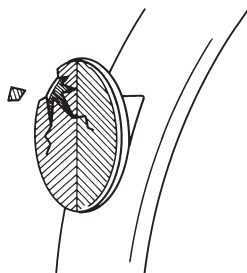
周囲の音が聞こえず、事故を起こすおそれがあります。

自転車を安全に乗るために

警告

⊘ 未組み立て及び未調整の自転車を使用しないこと。

⊘ リフレクタが破損したり、汚れたまま使用しないこと。

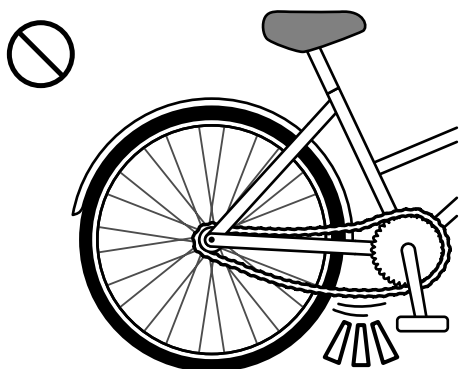


⚠ 変形したり破損した部品はすぐに交換すること。

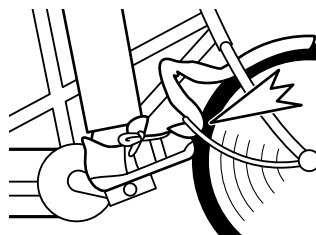
⚠ 夜間使用する時は、前照灯の点灯を確認すること。

チェーンが大きいたるんでいないこと

チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンが外れやすくなり、危険ですので、すぐに販売店で調整を受けてください。



走行中、くつ先が前輪や前ドロヨケに接触しないようにする
(つま先でペダルを踏む。)



前輪の回転により、足やドロヨケが巻き込まれて、事故を起こす危険があります。



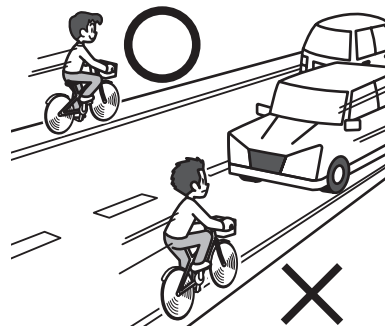
幼児・児童が自転車に乗車する時は、必ず自転車用ヘルメットを着用させてください。

また、幼児・児童以外の者が自転車に乗車する時も、安全のためヘルメットの着用をおすすめします。



車道を通るときは、左側に沿って通行します。

車道の右側通行は道路交通法で禁止されています。



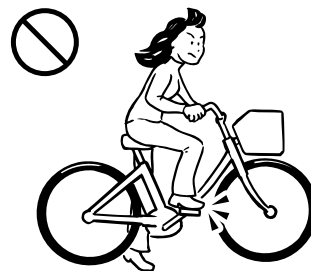
自転車を安全に乗るために

⚠ 警 告

発進時はペダルを強く踏み込みすぎない

思わぬ急発進により転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。

- 一般の自転車のように強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。



自転車の交通ルールについて

⚠ 警 告

REAL STREAM をより快適に、そして安全に乗るため交通ルールを守って安全運転を心がけましょう。安全に運転するために以下のようなことに気をつけてください。守らないと衝突や転倒などによるけがのおそれがあります。

安全運転のために

1 さあ、発進しましょう

- 走りだすときは、道路の左側から発進します。
- 周囲の安全確認を忘れずに。
- 後方から来る車にスタートの合図をします。
- スタートの合図のしかた
右手を地面と平行に真横にだします。

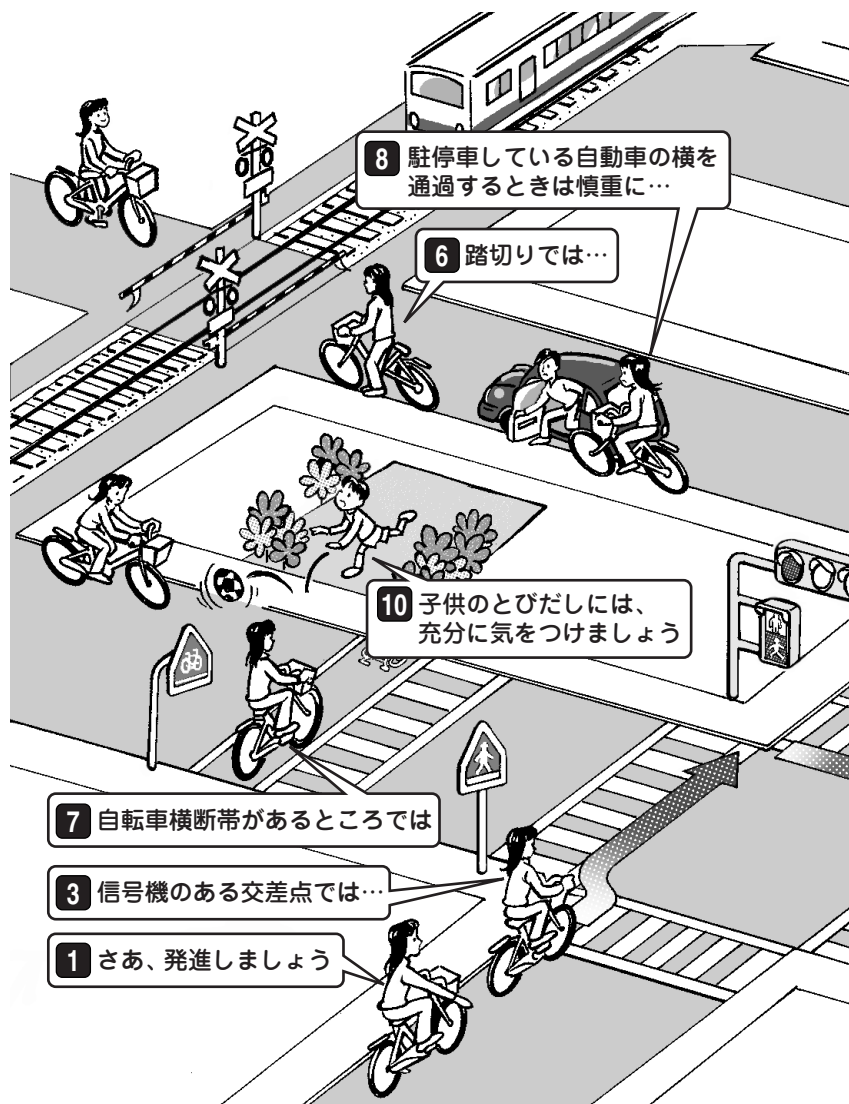
2 道路の左側を走りましょう

自転車は左側通行が原則です。また、歩道のない道路では、つねに歩行者優先を心がけましょう。

3 信号機のある交差点では…

信号をしっかり守り、横断しましょう。

- 正面の信号が青のとき、直進、左折ができます。
- 右折するときは、2段階右折をしてください。
- 2段階右折のしかた
正面の信号が青になったら一旦向こう側までわたり、止まります。次に右側の信号が青になってから進みます。

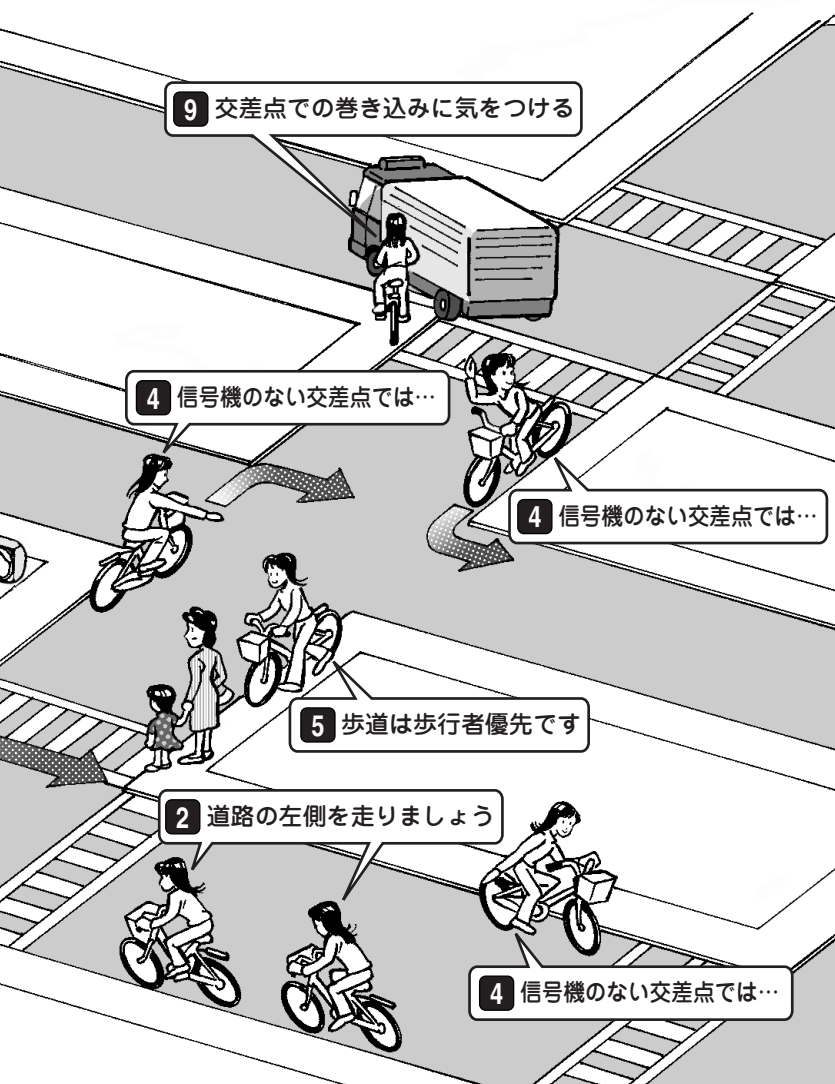


4 信号機のない交差点では…

信号機のない、見通しの悪い交差点では、周囲の安全を充分に確かめてから進みます。

- 曲がるときは合図をしましょう。
右折・左折とも、30m くらい手前から合図をだします。
- 右折／右手を地面と平行に真横にだします。
- 左折／右手を地面と平行に真横にだし、さらにひじを直角に上に曲げます。
- 停止／右手を斜め下にだします。

自転車の交通ルールについて



5 歩道は歩行者優先です

自転車の通行が許可されている歩道でも、歩行者の迷惑となる場合は、一旦 REAL STREAM から降りて車道寄りを押して歩くようにしましょう。

6 踏切りでは…

一旦 REAL STREAM から降りましょう。
踏切りをわたるときは、踏切りの手前で停車し、自転車の左側に降りてください。
遮断機が上がっている場合も、安全を確認してからわたるように心がけましょう。

7 自転車横断帯があるところでは…



自転車横断帯の表示がある横断帯ではそこを通行しなければなりません。

8 駐停車している自動車の横を通過するときは慎重に…

駐停車している自動車や、渋滞などで止まっている自動車は、急にドアが開くおそれがあります。あらかじめスピードを充分に落としてから通過するようにしましょう。

9 交差点での巻き込みに気をつける

交差点はいちばん事故が起こりやすいところです。特に左折時の大型車による巻き込み事故には充分に気をつけましょう。左折時は周囲の安全を確かめてから曲がるようにしましょう。

10 子どものとびだしには、充分に気をつけましょう

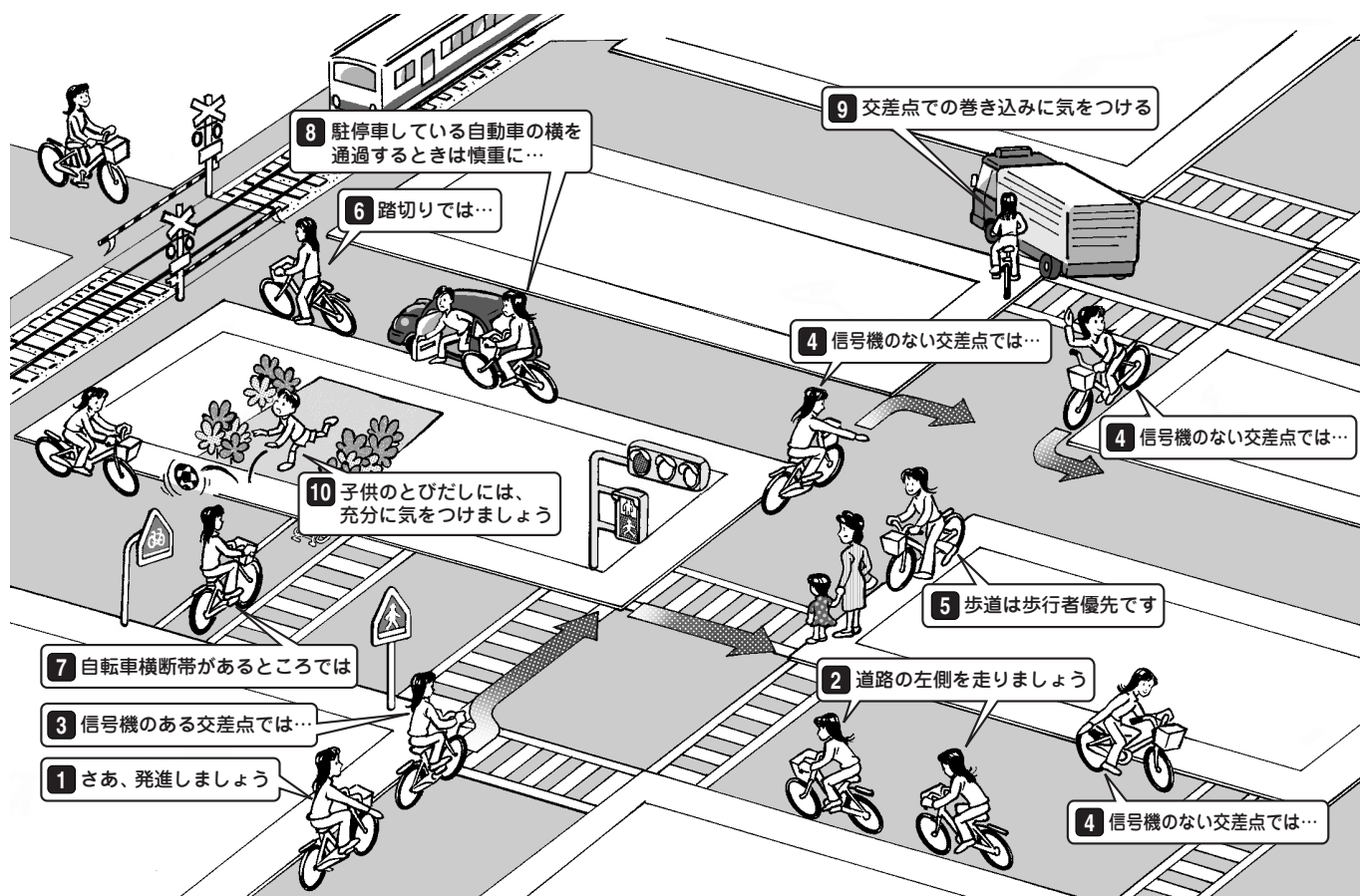
近くの公園や学校があるような道路では、とくに子どものとびだしに気をつけましょう。

11 自転車は車道通行が原則です

道路交通法上、自転車は軽車両と位置づけられています。したがって、歩道と車道の区別のあるところでは車道通行が原則です。
但し、次の場合には歩道を通行することができます。

- 道路標識等で指定された場合
- 運転者が児童、幼児等の場合
- 車道または交通の状況からみてやむを得ない場合

自転車の交通ルールについて



自転車のルールを守って、安全走行

- 止まって確認、らくらく発進
- ライトをつけて、らくらく走行



スピードのだしすぎや急ブレーキはやめましょう

スピードのだしすぎや急ブレーキは転倒や追突のもと。特に下り坂や雨の日、ぬれた路面などはすべりやすいので、ブレーキ操作に気をつけましょう。

また、カーブや交差点などではスピードを充分に落とし、ゆとりあるブレーキ操作で安全運転を心がけましょう。

- ブレーキをかけるときは…
ブレーキは、後ろブレーキ（左レバー）を早めに必ず前後ともにかけます。片側だけのブレーキ操作は転倒や横すべりの原因になります。

- 長い下り坂でのブレーキ操作は…
長い下り坂でブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキシューが加熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。ブレーキは小刻みにかけましょう。



の標識があるところでは…

必ず一旦停車し、周囲の安全を確認してから走りだしましょう。



横断歩道をわたるときは一時停止を忘れずに！

横断歩道の手前で一旦停車し、安全を確認してから進みましょう。



の標識・表示があるところでは…

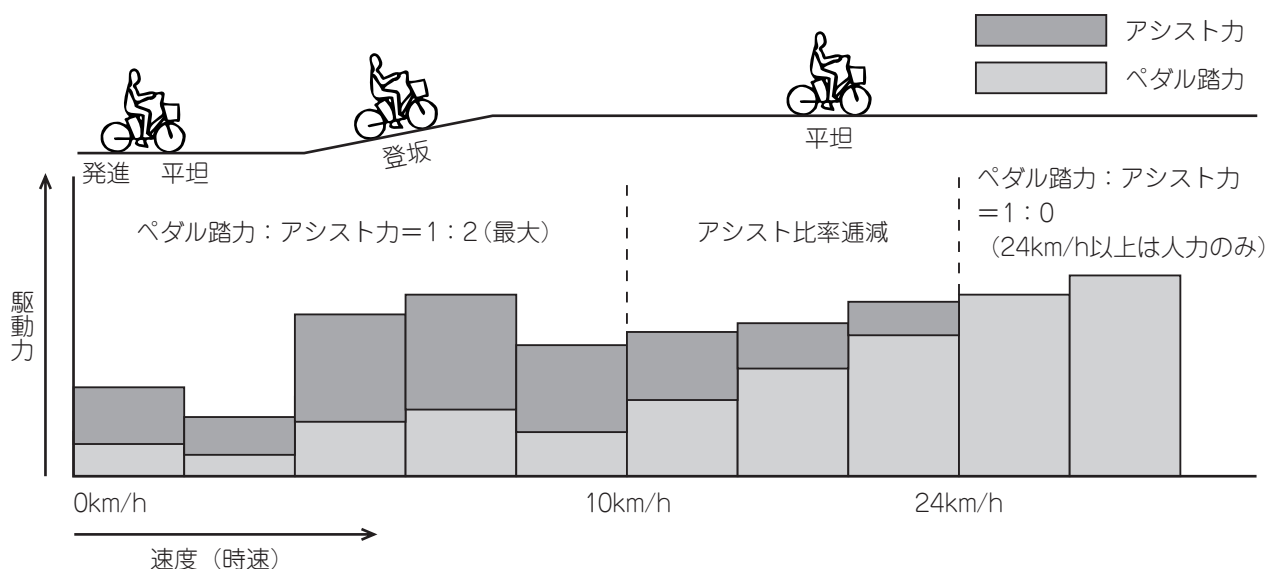
歩道の中央から車道よりを、または標識や表示に指定されているところを通行することができます。ただし、歩行者の迷惑にならないようにつねに周囲の状況に気を配り、場合によっては一時停止をしましょう。

REAL STREAM のしくみ

● ペダル踏力とアシスト力の比率

要 点

ここでは、オートエコモードプラスを使用せずに走行した場合のアシストについて説明しています。



REAL STREAMのアシストシステムは、ペダルを踏む力に補助的な力を加えて走行を助けてくれるシステムです。

モーターのアシスト力には法令基準により制限がありますが、2008年12月より法令改正があり、それまでよりもペダルを踏む力の負担が軽減されるようになりました。

新しい法令基準では、

- ・スタート～走行速度 10km/h … ペダル踏力：アシスト力 = 1：2 (最大)
- ・走行速度 10km/h ～ 24km/h … 走行が速くなるにつれてアシスト力は徐々に弱まります。
- ・走行速度 24km/h 以上 … アシスト力はゼロになり通常の自転車走行になります。

● REAL STREAM の健康増進効果

REAL STREAMは普通の自転車よりも坂道などの影響を受け難いため、負荷が軽い運動を長時間持続しやすいという特長があります。

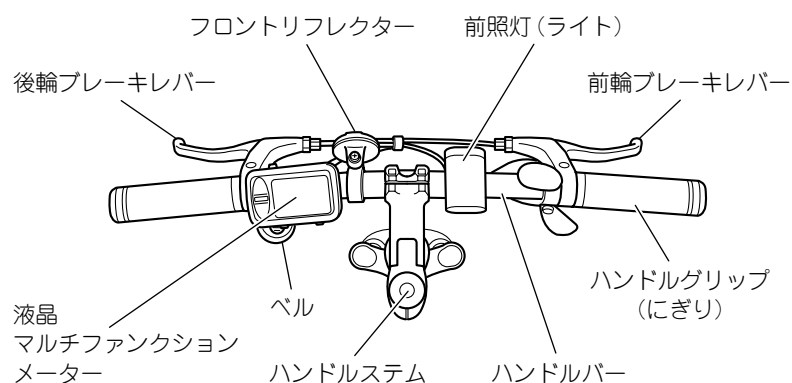
つまり酸素を身体に取り入れながら運動をする、「有酸素運動」の格好な手段です。

有酸素運動はエネルギー源として、主に脂肪を燃焼・消費するため、ダイエット効果が見込まれます。

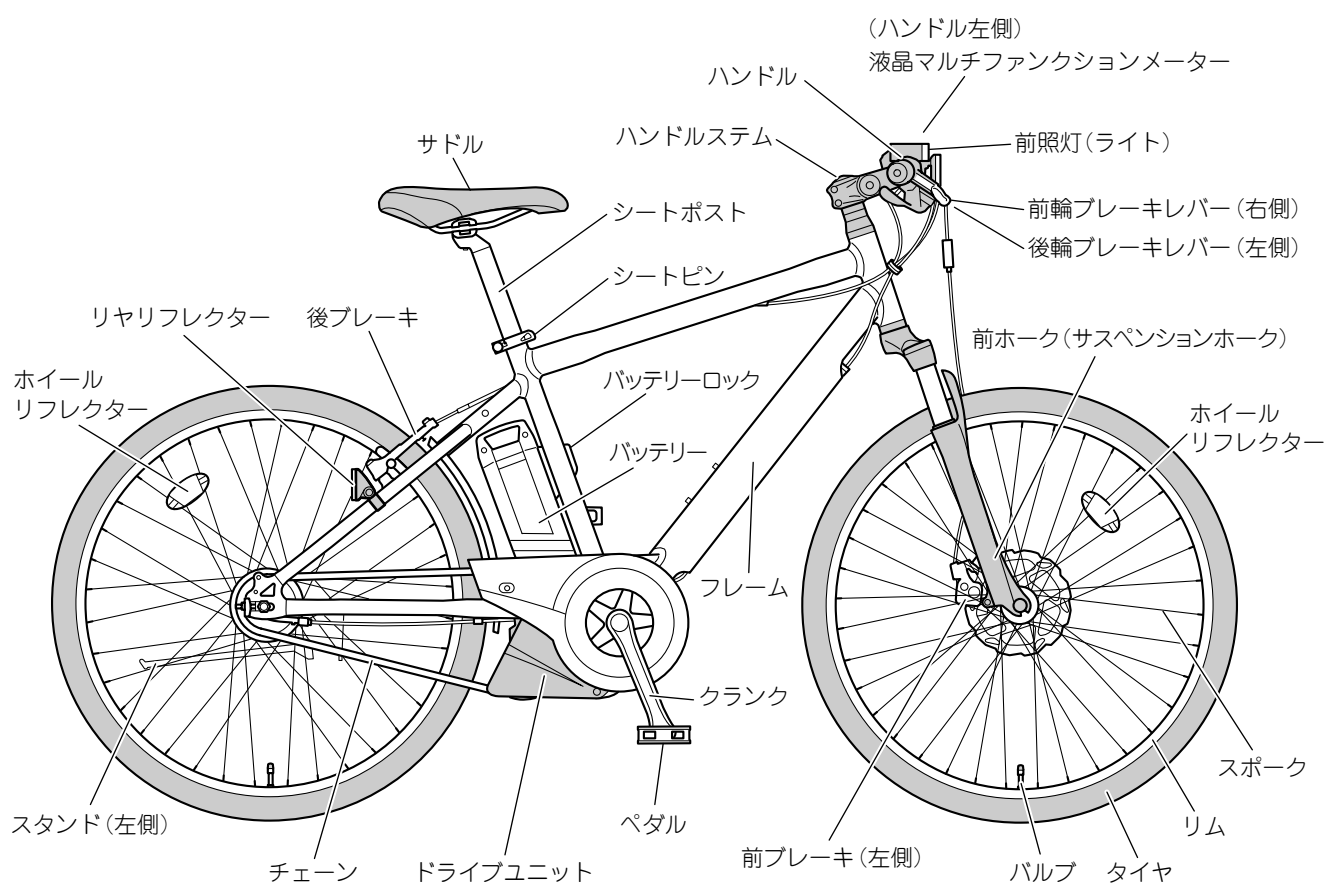
REAL STREAMは移動をしながら、気軽にかつ持続的に有酸素運動ができ、健康に良いといえることができます。

各部の名称

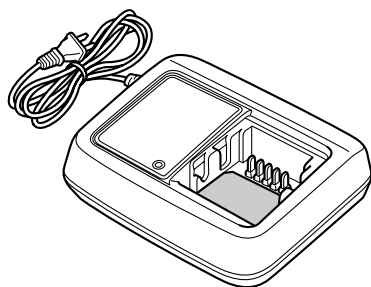
(ハンドル正面)



(ハンドル左側)



専用充電器



キーを失くしたときは

裏表紙の[キー番号記入欄]にキー番号を控えておいてください。万一、キーを紛失した場合、番号を控えておくことにより、キーの作製が可能です。キーの作製については、ご購入店にご相談ください。(有料)

バッテリーの特徴

REAL STREAM に使われているバッテリーとは


REAL STREAM はリチウムイオンバッテリーを装備しています。装備されるバッテリーの種類は、お買い求めいただいたアシスタによって異なります。

REAL STREAM のバッテリー：リチウムイオンバッテリー C300 12.8Ah

リチウムイオンバッテリーは軽量で電池容量に優れたバッテリーですが、以下の特性があります。

- 過度に暑い環境／寒い環境で性能が低下する。
- 使用していなくてもわずかず放電する。
- 新品は性能が安定するまで数回使用する必要がある。

また、REAL STREAM のバッテリーは、コンピューターを内蔵しており、バッテリー残量の目安や異常の発生をバッテリー残量ランプでお知らせします。

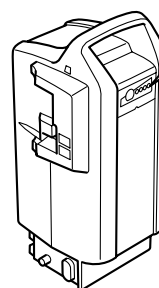
バッテリー残量は、バッテリー残量表示ボタン “” を押すことで約 5 秒間点灯してお知らせします。

バッテリー残量の目安については「バッテリー残量の確認」をご参照ください。(P42) 異常点滅については「もしもこんなときは」をご参照ください。(P72 ～ P76)

バッテリー残量表示ボタン



バッテリーボックスの
バッテリー残量ランプ



バッテリーについて

要 点

駐輪時、バッテリーを取り外した状態で接続端子が雨水にぬれていてもご使用いただけます。

バッテリーの特性

- バッテリーの温度が上がると、アシスト力が低下することがありますが、システム保護制御が作動したためであり故障ではありません。バッテリーの温度が下がると回復します。また、シフト位置を通常使用しているシフト位置よりシフトダウンしてご利用いただくと、回避することができます。(たとえば＜2＞→＜1＞速にする、など)
- バッテリーの温度が下がると、一充電当たりの走行距離が短くなったりアシスト力が低下することがありますが、リチウムイオンバッテリーの特性であり故障ではありません。温度が上がると回復します。また、バッテリーを温度 15 ～ 25℃ の室内で保管してからご使用いただくと、病状を軽減することができます。
- 使用していなくても、わずかず放電します。ご使用いただく前に充電することで回復します。
- 新品時は走行距離が短いときがありますが、数回ご使用いただき充電すると、本来の性能になります。



バッテリーの交換について

バッテリーの寿命と交換

バッテリー容量は、充放電を繰り返し（700～900 サイクル※1）行くと、新品のときの約半分にまで低下します。また、長期間保管しているときも、わずかながらですがバッテリー容量は低下します。バッテリー容量が低下すると一充電当たりの走行距離が短くなり、アシスト力が弱く感じる場合があります。充電しても回復する兆しが無ければバッテリーの交換時期です。できるだけ早めにバッテリーを交換してください。なお、この場合の交換は有料になります。

※1 充放電の「1 サイクル」とは、満充電にしたバッテリーをバッテリー残量が0（ゼロ）になるまで使用し、再び満充電にする一連の工程をいいます。

長期使用お知らせ機能

長期間の使用によりバッテリー容量の低下が想定されるため、バッテリー交換時期の目安として長期使用をお知らせする機能を備えています。

お知らせ開始年数※2 またはお知らせ開始総充電容量※3 のいずれか一方に達すると、バッテリーを充電器に接続してから約2 秒間、バッテリー残量ランプが4 灯同時に速く点滅（約0.1 秒間隔）してお知らせします。



長期使用をお知らせする条件は、バッテリーの種類（容量）によって異なります。

お知らせ開始年数※2	お知らせ開始総充電容量※3
10.0 年	10500Ah

※2 お知らせ開始年数とは、新品時、最初に充電したときからバッテリー内コンピューターが積算を始めて現在までの累積期間です。

※3 お知らせ開始総充電容量とは、新品時、最初に充電したときから現在までの充放電を繰り返した結果、充電された容量の総和です。

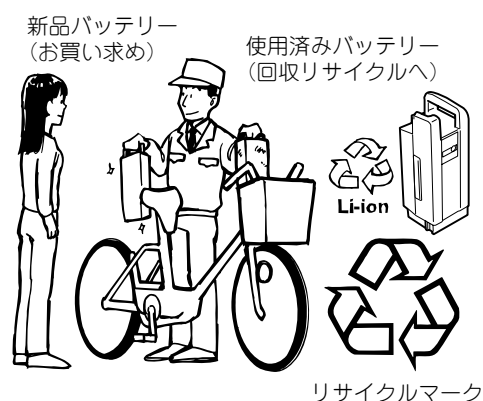
要 点

- 長期使用のお知らせを約2 秒間表示したのち、自動的に充電が始まります。
- 長期使用お知らせ機能が作動しても引き続きお使いいただけますが、一充電当たりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合はバッテリーの交換時期です。バッテリーの交換については、販売店にご相談ください。

バッテリーの交換について

バッテリーの交換に関するお願い

- バッテリーの不調を感じたら、販売店にご相談ください
バッテリーに不調を感じたら、まず「もしもこんなときは」(P72～P76)をお読みください。
それでも回復、改善しない場合は、販売店にご相談ください。
- バッテリーの保証について
リチウムイオンバッテリーには、一定期間内における著しい劣化および故障に対して、保証が付帯しています。保証に関する詳細は、保証書をご覧ください。
- バッテリーのリサイクルにご協力ください
リチウムイオンバッテリーは、「資源の有効な利用の促進に関する法律（資源有効利用促進法）」で、使用後の回収および再資源化が義務付けられています。
交換時期が来て、使用済みになったバッテリーは、販売店でリサイクルしてもらってください。小さな積み重ねが地球の限られた資源を有効活用します。



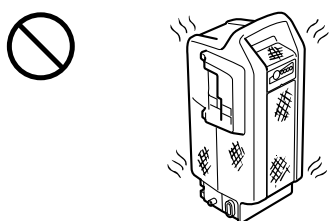
バッテリーや充電器を使うとき

警告

バッテリーケースに破損や傷つきがあるとき、または異臭がするときは使用しない

液漏れなどにより、やけどやけがなどのおそれがあります。

- 異常を感じたときは、すぐに販売店にご相談ください。



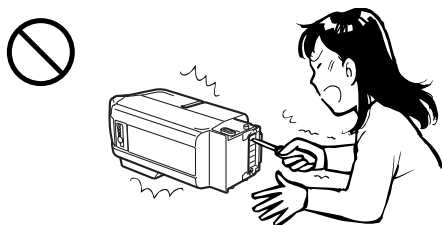
バッテリーを落としたり、衝撃を与えない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。



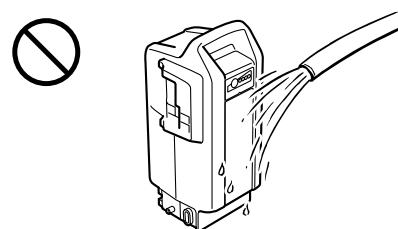
バッテリー底部の接点を短絡（ショート）させない

発熱、発火、感電の原因となります。



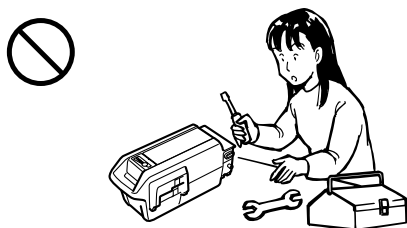
バッテリーに水をかけたり、水の中に入れない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。



バッテリーの分解や改造をしない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。



バッテリーを火中に投入したり、過熱しない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。



専用充電器を使用する

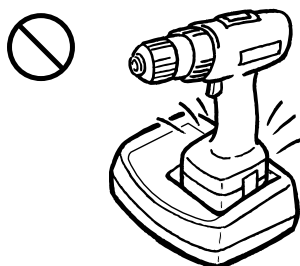
発熱、発火、破損、故障の原因となります。

バッテリーや充電器を使うとき

警告

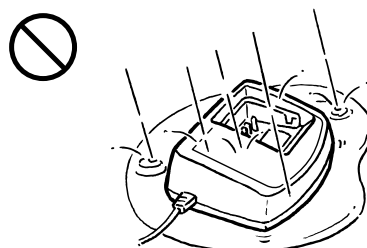
専用充電器は他の電気機器に使用しない

他の電気機器などに使用すると、火災や破裂の原因になります。



充電器を水でぬらしたり、雨中で使わない

感電や火災、故障の原因になります。

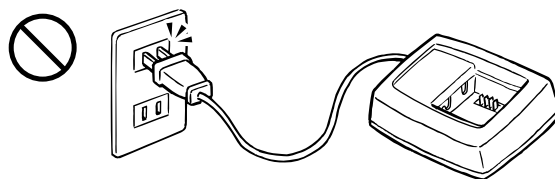


充電端子を金属などで短絡（ショート）させない

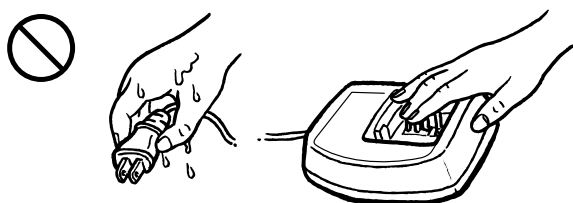
発熱、発火、感電のおそれがあります。



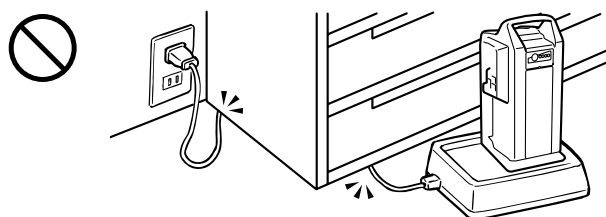
電源プラグは根元まで確実に差し込む
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを取り扱ったり、充電端子に触れたりしない
感電するおそれがあります。



コードの上に物を乗せたり、はさんで固定しない
火災や感電の原因になります。



充電端子にボタン電池や乾電池を接触させない

破裂・発火のおそれがあります。

コードが損傷しているときは使用しない

火災や感電のおそれがあります。

充電器を分解したり、改造しない
火災や感電の原因になります。

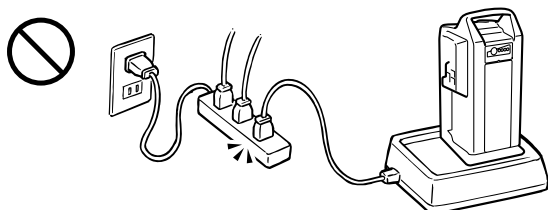
電源プラグのほこりなどは定期的
に取る
湿気などで絶縁不良となり、火災の原因
になります。

バッテリーや充電器を使うとき

⚠ 警告

コンセントや配線器具の定格を超える
使いかたはしない

たこ足配線などで定格を超えると、発熱
による火災の原因になります。



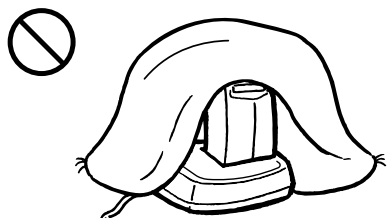
幼児やペットが触れるところに放置
しない

感電や火災、故障の原因になります。



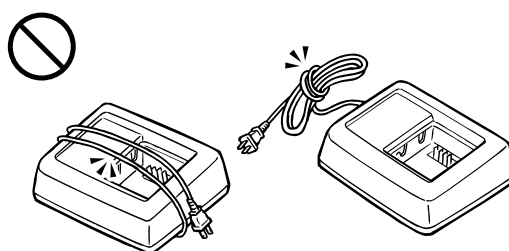
充電中に周囲にカバーをしたり、上
に物を置かない

内部が発熱し、火災のおそれがあります。



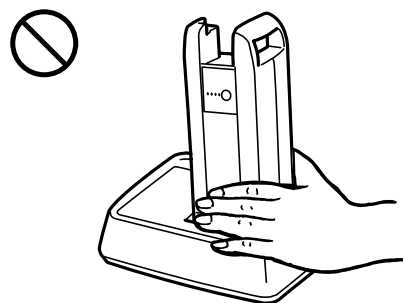
電源コードを束ねた状態で使用したり、充電器本体に巻きつけて保管し
ない

電源コードの損傷により、火災や感電な
どの原因となるおそれがあります。



充電中は長時間、皮膚を充電器の同
じ場所に触れさせない

充電中は 40℃～ 60℃になる場合があり、
低温やけどのおそれがあります。



ガソリンなどの引火物や引火性ガス
の近くでは充電しない

火災や爆発などの原因となることがあり
ます。

⚠ 注意

バッテリーを他の電気機器に使用しない

他の電気機器に使用すると故障の原因となります。

充電に適した環境

過度に暑い場所や寒い場所では正しく充電できないことがあります。以下の充電に適した環境で行ってください。

- 温度が 15 ～ 25℃の室内
- 雨や水にぬれないところ
- 直射日光が当たらないところ
- 風通しがよく湿気がないところ
- 平坦で安定するところ
- 幼児やペットが触れられないところ

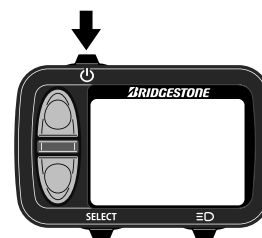
要 点

- テレビやラジオにノイズが発生する場合は、場所を移動して充電を行ってください。
- 充電待ちになったバッテリーが充電できる温度に下がるまで、室内の温度が高いほど時間を要します。室内の温度が 30℃の場合、約 5 時間必要になる場合があります。
- 正常に充電を開始しても、充電途中でバッテリー内部が規定の温度を超えたとき、バッテリー保護のために自動的に充電を中断します。この場合、十分に充電されないことがありますので、しばらくバッテリーを冷ました後、充電に適した環境で再度充電してください。

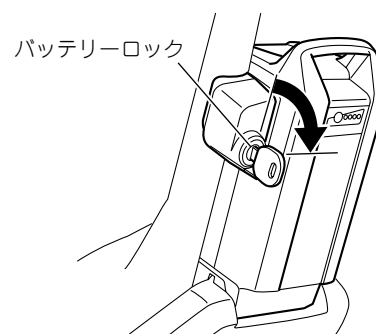
バッテリーの脱着

バッテリーの取り外しかた

- 1 液晶マルチファンクションメーターの電源が切れていることを確認します。電源が入っている場合は、メーター上部の電源ボタンを押して電源を切ります。



- 2 バッテリーロックにキーを差し、時計方向に回します。

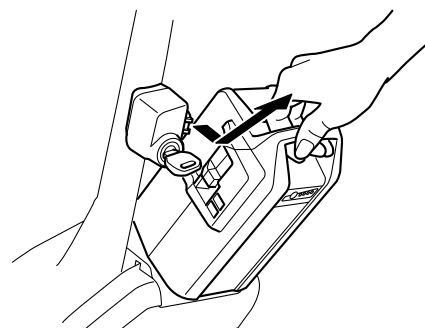


- 3 バッテリーロックが解除されます。

- 4 バッテリーのグリップを持ち、斜めに倒しながら上へ引き出してバッテリーを取り出します。

要 点

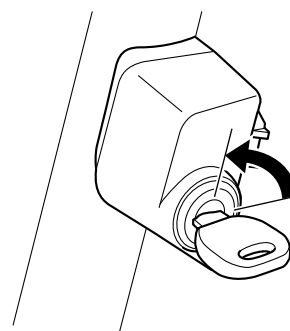
駐輪時、バッテリーを取り外した状態で接続端子が雨水にぬれていてもご使用いただけます。



- 5 バッテリーを取り外した後、反時計方向へ回してロックします。

▲ 注 意

ロックした後、キーを忘れずに抜き取ってください。



- 6 充電をします。(P32 ~ P34)

バッテリーの脱着

バッテリーの取り付けかた

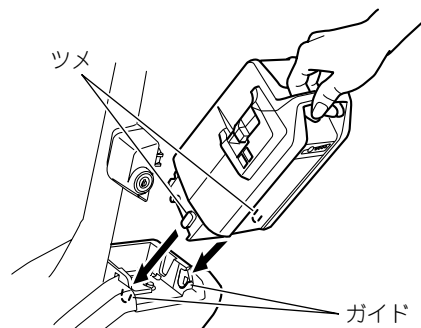
- 1 車両側のガイドにバッテリーのツメを合わせながら、ゆっくりとバッテリーを差し込みます。

⚠ 警告

バッテリー挿入時、指などをはさまないようにしてください。

⚠ 注意

車両側のバッテリー装着部にゴミなどが付着していないことを確認してください。



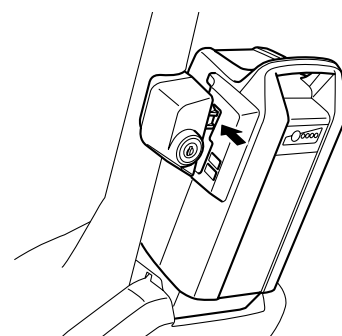
- 2 バッテリーの上部を押し込みます。
中央まで入るとカチッと音がしてロックされます。
装着後、バッテリーを手前に引いて確実に装着ロックされていることを確認してください。

要 点

キーをロックに差し込んだままでもバッテリーは取り付けられますが、そのときはバッテリー上部が中央まで入ったら、キーを押しながら反時計方向に回してロックし、キーを抜いてください。

⚠ 警告

確実に装着されていないと、バッテリーが落下するおそれがあります。



充電しましょう

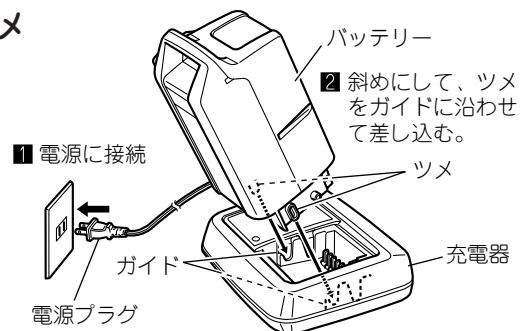
充電のしかた

REAL STREAM のバッテリーは車両から取り外し、専用充電器を使用して充電してください。

充電器のつなぎかた

- 1 充電器の電源プラグを家庭用のコンセント（100V）に接続します。

- 2 バッテリーを斜めにして、バッテリーの 2 か所のツメを充電器のガイドに沿わせ、充電器に差し込みます。

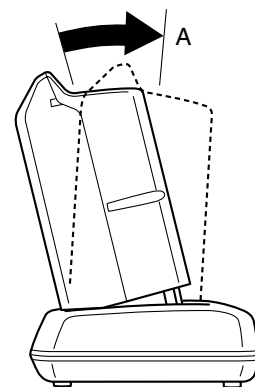


- 3 バッテリーの上部を A の方向へ押すようにして、確実に接続します。

要 点

バッテリーにガタがないことを確認してください。

充電器を電源に接続し、バッテリーを充電器に差し込むだけで、自動的に充電できます。



- 4 充電状態を充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプで確認します。

充電状態は「充電状態の見かた」をご参照ください。
(P33)

警告

充電中に異音や異臭がしたり煙がでるなど異常に気がついたら、ただちに充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り外してください。



- 5 充電の完了を確かめ、バッテリーを充電器から取り外します。

充電が完了すると、充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプが消灯します。

充電器を押さえながらバッテリーのグリップをもって手前に倒し、上側に引き出します。

充電状態の見かた

充電の確認

充電の状態は、充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプで行います。

充電ランプの表示	バッテリー残量ランプの表示	状態
<ul style="list-style-type: none"> ● 緑ランプ点灯 充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅 充電待機 ● 赤ランプ点滅 異常  <p>緑色に点滅</p>	 <p>4 灯同時点滅</p>	<p>バッテリーの内部が高温のとき、またはバッテリーが過度に冷えているときは、充電器の充電ランプが緑色に点滅し、またバッテリーのバッテリー残量ランプ全てが点滅して、充電待ちの状態をお知らせします。このような場合は、一旦充電を中止し、バッテリーの充電に適した環境で再度行ってください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 緑ランプ点灯 充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅 充電待機 ● 赤ランプ点滅 異常  <p>緑色に点滅</p>	 <p>充電器接続時 1 灯点滅</p>	<p>充電開始前の準備状態です。しばらくすると充電が開始されます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 緑ランプ点灯 充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅 充電待機 ● 赤ランプ点滅 異常  <p>緑色に点灯</p>		<p>正常に充電しているときは、充電器の充電ランプは緑色に点灯します。バッテリーのバッテリー残量ランプは現在の残量分の一番右側のランプが点滅します。</p> <p>充電が進むと、バッテリーのバッテリー残量ランプが 1 灯ずつ増えていきます。それに伴い点滅するランプも右側に移動します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 緑ランプ点灯 充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅 充電待機 ● 赤ランプ点滅 異常  <p>消灯</p>	 <p>消灯</p>	<p>充電が完了すると、充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプは消灯します。</p>

充電しましょう

要 点

- 充電待ちになったバッテリーが充電できる温度に下がるまで、室内の温度が高いほど時間を要します。室内の温度が 30℃ の場合、約 5 時間必要になる場合があります。
- 正常に充電を開始しても、充電途中でバッテリー内部が規定の温度を超えたとき、バッテリー保護のために自動的に充電を中断します。この場合、十分に充電されないことがありますので、しばらくバッテリーを冷ました後、充電に適した環境で再度充電してください。

充電時間の目安

充電時間は、バッテリー内部の温度により異なります。また、お買い求めいただいたアシスタに装備されているバッテリーの種類（容量）および充電器の種類によっても異なります。

REAL STREAM の装備バッテリー	リチウムイオンバッテリー C300 12.8Ah
----------------------	--------------------------

バッテリーを残量ランプの 1 灯点減まで使用したとき、満充電までの充電時間はおおよそ以下のとおりです。

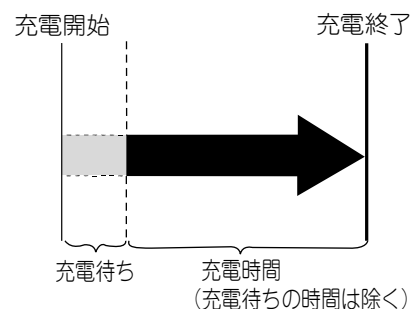
充電時間	約 3 時間 30 分
------	-------------

⚠ 警 告

充電中異常に気づいたら、ただちに充電器の電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリーを充電器から取り外してください。

要 点

充電時間の目安は、充電待ち時間（バッテリー内部温度が充電できる温度に下がるまでの時間）は含まれていません。





乗車前点検

▲警告

- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

●走行する前に確認する項目 1～18

●走行してすぐに確認する項目 ①～③

要 点

液晶マルチファンクションメーターの電源を切って点検してください。



5 リヤリフレクター

5 ホイールリフレクター

1 にぎりの固定

にぎりに力を入れても回ったり、抜けないこと。

7 ペダルなど、可動部のがたつき

ペダルなど可動部のがたつきがないか、スムーズに回転するかを確認します。
がたつきがあるときはボルトなどの増し締めをします。

③ パワーアシストシステムの作動

発進してパワーアシストシステムがしっかり作動するかを確認します。このときパワーアシストシステムからふだんと異なる音がしたり、煙や異臭など異常を感じた場合は、ただちに乗車をやめて販売店にご相談ください。

▲注意

パワーアシストシステム機構の内部は精密部品で構成されていますので、分解したりしないでください。万一、異常が感じられる場合はすみやかに販売店にご相談ください。

乗車前点検

① 変速機の作動

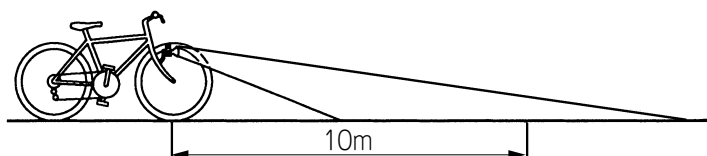
走行中に変速機が作動しないときや、操作性が悪い場合には販売店にご相談ください。

② ベルの鳴り具合

ベルが鳴るか、動きが悪くないかを確認します。

③ 前照灯の点灯／照射角度

前照灯の光軸中心が10m前方の路面部を照らしているか確認します。



前照灯（ライト）の点灯、消灯は、前照灯本体のスイッチで行います。
もし点灯しない場合は、販売店にご相談ください。

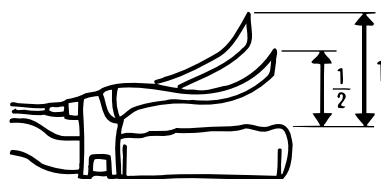
④ ハンドルの状態

ハンドルを上下左右／前後方向に動かし、がたつきがないかを確認します。また、ハンドルが前輪と直角になっているかを確認します。
ハンドルの高さは、サドルにまたがってハンドルバーを握ったときに軽くひじが曲がるくらいが適切です。

⑤ ブレーキレバーの握りしろ

前後のブレーキレバーを握って、レバーとハンドルグリップとの間が約 $\frac{1}{2}$ でブレーキがきくかを確認します。

ブレーキレバーの握りしろが大きすぎるときも小さすぎるときも、販売店で点検・調整を受けてください。



⑥ フロントリフレクター／リヤリフレクター／ホイールリフレクターの汚れと破損

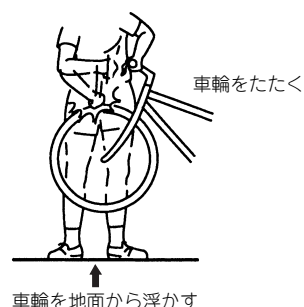
リフレクターに汚れや破損がないかを点検します。汚れは拭き取ります。また、損傷している場合は交換してください。

⑦ サスペンションホークと前輪の固定

自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいてみる。

※車輪がズレたりガタついたりしないこと。

※サスペンションホークが抜けないこと。



乗車前点検

▲ 警 告

- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

要 点

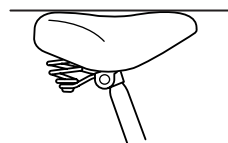
液晶マルチファンクションメーターの電源を切って点検してください。



- 走行する前に確認する項目 ①～⑩
- 走行してすぐに確認する項目 ⑪～⑬

⑧ サドルの状態

- サドルの高さは、またがって両足のつま先が地面につくくらいが適切です。
- また、サドルにゆるみやがたつきがないかを確認します。
- サドル上面がほぼ水平に固定されていることを確認します。



⑨ サドルの高さ調整用シートピンのゆるみ

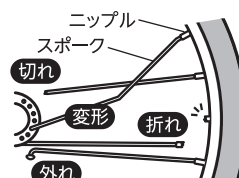
- シートピンにゆるみがないかを確認します。
- 足に当たらない位置にレバーが閉じられていることを確認します。

⑩ バッテリーの取り付け状態

バッテリーが確実に固定されているかを確認します。

⑪ 前後車軸とスポークの状態

前後車軸に、ゆるみやがたつきがないかを確認します。また、スポークやニップルの切れ、外れ、変形を確認し、みつかった場合は早急に交換してください。



▲ 警 告

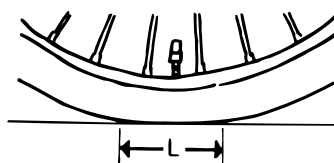
ホイールが変形し、ブレーキと接触して走行性が損なわれ、転倒するおそれがあります。スポークが一本でも外れたまま走行を続けると、他のスポークに大きな負担が繰り返し加わり、スポーク寿命が低下し、スポーク切れが継続して発生する場合があります。スポークは全て交換することをお勧めします。

⑫ タイヤの空気圧、摩耗、損傷

タイヤの空気圧が適正であるかを確認します。空気圧は接地面の長さで確認することができます。適正な空気圧でないとパンクや車体各部のがたつきの原因になります。また、摩耗していないか、異物や釘などがささっていないかを確認します。

適正空気圧	
前輪	280～450kPa (2.8～4.5kgf/cm ²)
後輪	280～450kPa (2.8～4.5kgf/cm ²)

(測定時の参考条件：乗員体重60kg)



接地面の長さ(L)：13～14cm

⑬ スタンドの作動状態

スタンドがスムーズに作動し、異常ながたつきがないかを確認します。

乗車前点検

14 バッテリーの残量

液晶マルチファンクションメーターの電源を入れて、残量ランプで目安を確認します。

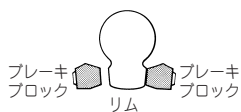
15 Vブレーキシューの状態

ブレーキをかけたとき、ブレーキシューが正しくリムに当たること

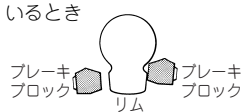
① つぎの場合にはお店にご相談ください

強制

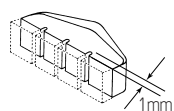
◆ブレーキシューがリムに当たったままになっているとき



◆ブレーキをかけた状態でブレーキシューがリムからズレているとき



◆ブレーキシューが摩耗して、溝の残りが1mmになったとき



◆アジャストボルトで調整しきれないとき

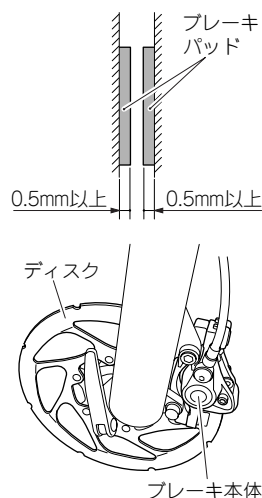
◆ブレーキの効きが悪くなったとき

17 ディスクブレーキの場合

一般的な点検項目のみ説明します。

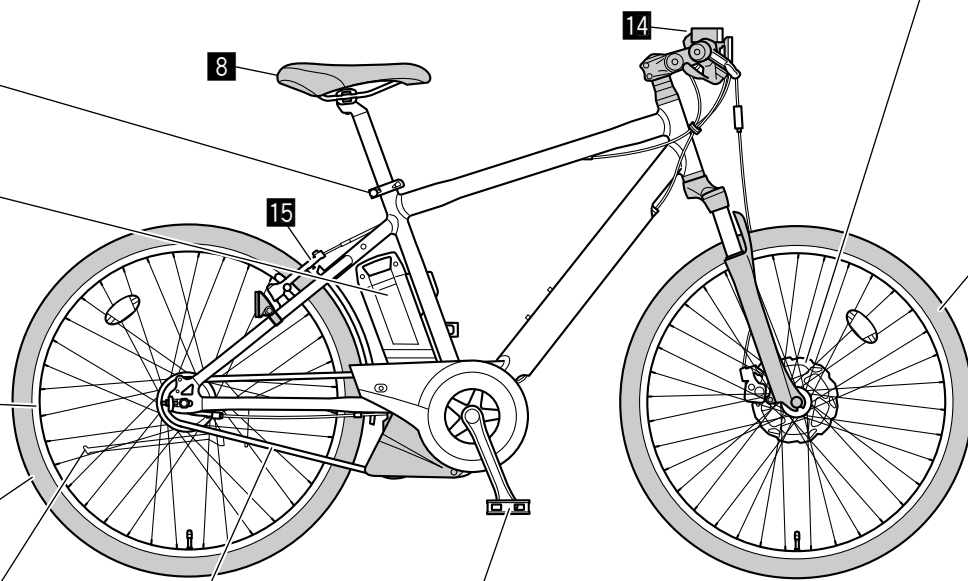
詳しくは各ディスクブレーキ(部品)の説明書もごらんください。

- ブレーキパッドの残りが0.5mm以上あること。
- オイルもれがないこと。(オイル駆動式の場合)
- 前後それぞれブレーキをかけて、正しく作動すること。
- ディスクが変形したり、油が付着していないこと。



▲ 警告

点検や整備で車輪を回転させる時は、回転中のディスクにさわらないようにしてください。指を巻き込まれてケガを負う危険があります。



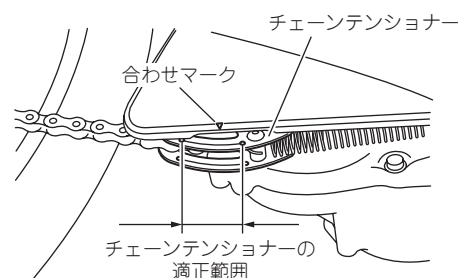
12 タイヤの空気圧、摩耗、損傷

18 パワーアシストシステムの作動

メインスイッチの電源を入れて、ペダルに足をかけて発進させたとき、パワーアシストシステムが作動するかを確認します。

16 チェーンのたるみ

ドライブユニットカバーの合わせマークを基準にチェーンテンショナーが適正範囲にあるかを確認します。適正範囲にない場合は、チェーンの調整または交換が必要です。チェーンの調整および交換は、販売店にご相談ください。



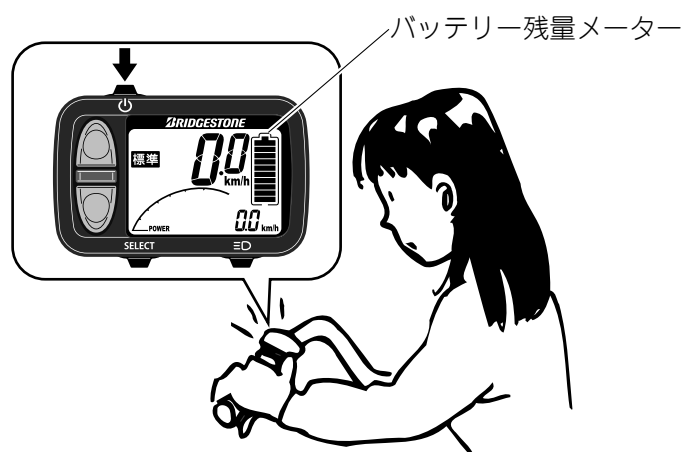
バッテリー残量の確認


バッテリー残量の見かた

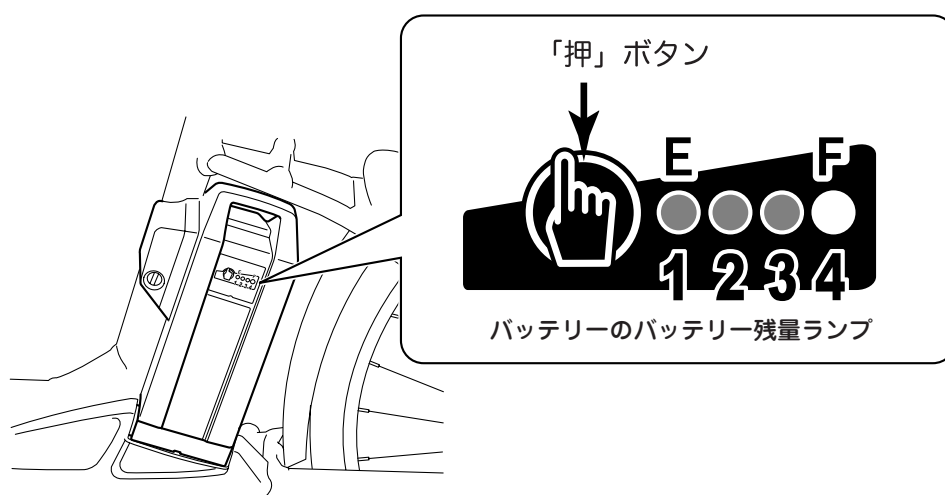
REAL STREAM に乗る前に、必ずバッテリーの残量を確認めましょう！

バッテリーの残量は、液晶マルチファンクションメーターのバッテリー残量メーターまたはバッテリーのバッテリー残量ランプで確認することができます。

液晶マルチファンクションメーターのバッテリー残量メーターは、液晶マルチファンクションメーターの電源ボタンを押して電源を入れる则表示します。





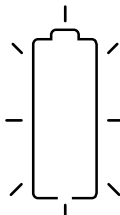
バッテリーのバッテリー残量を確認するときは、バッテリー残量ランプ横の残量表示ボタン「」を押します。



バッテリー残量の表示と目安

液晶マルチファンクションメーターのバッテリー残量メーターの表示とバッテリー残量の目安

液晶マルチファンクションメーターのバッテリー残量メーターはバッテリー残量の目安を表示します。

液晶マルチファンクションメーターのバッテリー残量メーター表示	バッテリー残量	目 安
	100 ~ 11%	<p>アシスト走行できます</p> <p>満充電から液晶マルチファンクションメーターの電源を入れて連続走行すると、バッテリー残量が 10% 減少することにより、バッテリー残量メーターのセグメントが 1 個ずつ減ります。</p>
<p>遅い点滅 < 0.5 秒毎 ></p> 	10 ~ 1%	<p>充電時期のお知らせ</p> <p>バッテリー残量が残りにわずかです。そろそろ充電しましょう。 ※まだしばらく（平坦路約 500m ~ 2km）はアシスト走行できます。</p>
<p>速い点滅 < 0.2 秒毎 ></p> 	0%	<p>アシスト走行停止</p> <p>バッテリー残量がなくなりました。液晶マルチファンクションメーターの電源を切って走行し、早めに充電してください。 ※アシストは停止されますが、自転車として走行することができます。</p>







乗る前に

要 点

- 上記のバッテリー残量の数値（%）は、新品バッテリーのときの状態です。バッテリーが古くなれば、残量表示の精度はしだいに悪くなります。
- 古くなったバッテリーを使っている場合、発進時に液晶マルチファンクションメーターのバッテリー残量メーターの表示が急激に少なくなることがありますが、これは故障ではありません。古くなったバッテリーの内部反応が、急激な負荷に追いつかなくなっている現象です。負荷が少なくなれば表示は安定します。

バッテリー残量の表示と目安

バッテリー残量ランプの表示とバッテリー残量の目安

バッテリー残量ランプの表示	バッテリー残量の目安	適応状態
	100 ~ 75%	満充電（F）から1灯ずつ残量ランプが減少していきます。
	74 ~ 50%	
	49 ~ 25%	
	24 ~ 11%	
 1灯目の遅い点滅 <0.5秒間隔>	10 ~ 1%	バッテリー残量が残りわずかです。
 1灯目の速い点滅 <0.2秒間隔>	0%	バッテリー残量が0（ゼロ）になりました。充電してください。

要 点

- バッテリーの容量が0（ゼロ）になっても普通の自転車として走行することができます。
- 古くなったバッテリーを使用していると、充電直後でも発進時にバッテリー残量メーターが急激に少なく表示することがありますが、故障ではありません。走行が安定し負荷が少なくなれば適切な数値を表示します。

走行モードの切り替えかた

この REAL STREAM は、強モード、標準モード、オートエコモードプラス、アシストオフモードといった 4 種類の走行モードを装備しています。

- 強モードは標準モードに比べて全域でアシスト力を強くした設定になっていますので、よりらくに走行することができますが、そのぶん走行できる距離が短くなります。
- 標準モードで常時走行すると、強モードに比べてバッテリー消費が少ないため、走行できる距離が伸びます。
- オートエコモードプラスを使用すると、REAL STREAM が自動的に走行条件（道路、積載状況など）に見合ったアシスト力の調整を行います。
- 変速グリップの切り替えで適切なシフト位置を選び、上手な走行モードの切り替えとの組み合わせで快適な走行が楽しめます。
- アシストオフモードは、液晶マルチファンクションメーターの一部の機能を使いながら、アシストなしで普通自転車として走行できるモードです。

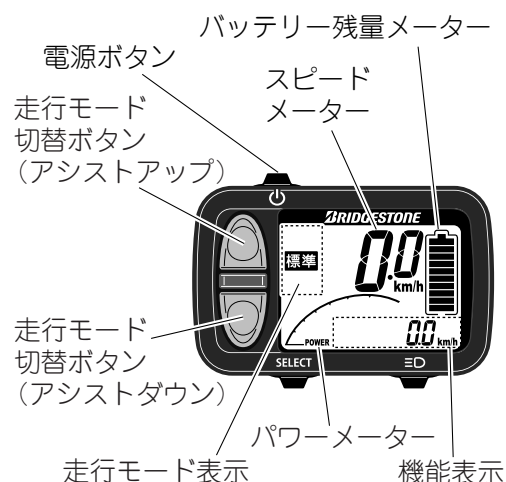
走行モードの切り替えかた

1 液晶マルチファンクションメーターの電源ボタンを押して、電源を入れます。

電源が入ると、バッテリー残量メーター、スピードメーター、パワーメーター、平均走行速度などの機能表示、および走行モード表示の“標準”が表示されます。（P52～55）

警告

液晶マルチファンクションメーターの電源を入れるときは、ペダルに足をかけないでください。



2 走行モード切替ボタンを押し、走行モードを切り替えます。

走行モード切替ボタン（アシストアップ）を押すと、走行モード表示が、表示なし→[オートエコ]→[標準]→[強]というように切り替わります。

走行モード切替ボタン（アシストダウン）を押すと、走行モード表示が[強]→[標準]→[オートエコ]→表示なし、というように切り替わります。

● 走行モード表示の

- “強”が表示されているとき、走行モードは強モードです。
- “標準”が表示されているとき、走行モードは標準モードです。
- “オートエコ”が表示されているとき、走行モードはオートエコモードプラスです。
- 表示がないとき、走行モードはアシストオフモードです。

要 点

- 走行モードの切り替えは、走行中、停止中にかかわらずいつでもできます。
- 走行モードの切り替えとメーターの機能とは関係ありません。
- 走行モード切替ボタンの（アシストアップ）と（アシストダウン）を押し続けても、走行モードは一巡しません。

走行モードの使い分けかた

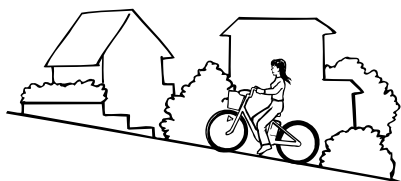
モードの上手な選びかた

急な上り坂など負荷が大きいときは強モードが、平地やゆるやかな上り坂などは標準モードがおすすめです。電池の消費を節約したいときには、オートエコモードプラスが適しています。普通自転車として走りたいときには、アシストオフモードを選択してください。

おすすめ走行モードの参考

●強モード

急な坂道や、体力の消耗を少なくして楽に走りたいときは、強モード。



●標準モード

平坦な道や、ゆるやかな坂道を乗るときは、標準モード。



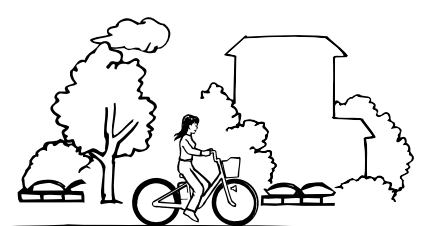
●オートエコモードプラス

できるだけ長い距離を走りたいときは、オートエコモードプラス。



●アシストオフモード

普通自転車として走りたいときは、アシストオフモード。



オートエコモードプラスのはたらき

オートエコモードプラスは節電しながら走行するモードですが、発進時、急坂の登坂時など、ペダルを強く踏み込んでいる間は、アシスト力を強くします。

また、ゆるやかな坂の登坂時、強風時など、やや強めにペダルを踏んでいる間はアシスト力を弱くします。

さらに、平坦路走行時などでペダルを踏む力が弱いときは、アシスト力をカットします。

これらを REAL STREAM が自動的にコントロールし、一充電あたりの走行距離を伸ばします。

長所：平坦路が多い走行パターンでは、一充電あたりの走行距離が大きく伸びます。

●走行モード別の一充電あたりの走行距離は、下の表のようになります。

一充電あたりの走行距離は、標準パターンで走行したときの平均値です。標準パターンの詳細については、「充電あたりの走行距離できる距離」(P46) をご参照ください。

一充電あたりの 走行距離	オートエコモードプラス	標準モード	強モード
標準パターン	75km	59km	50km

走行モードの使い分けかた

● 各走行モードのアシスト制御イメージ

走行状況に合わせて「強」「標準」「オートエコモードプラス」の走行モードが選べます。イラストは走行状態のちがいによるアシスト力の変化を示しています。

走行モード	特徴	アシスト制御イメージ			
		発進時	平坦路	ゆるい上り坂	きつい上り坂
強モード	急な坂道などにパワーモード				
標準モード	パワーも距離も両立通常モード				
オートエコモードプラス	距離を重視エコノミーモード		切（節電）		
		こぎ出しの力をアシスト	平らな道ではアシストを抑える	勢いをつけるためにアシスト力アップ	さらに強いアシスト力でサポート

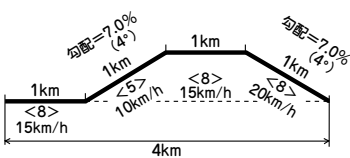

※イラストはイメージであり、実際の走行条件（路面条件・風など）によって変化します。

強モード	常にパワフルなアシストで頼りになるモード	発進時や急な坂道、楽に走行したいときに使います。
標準モード	パワー距離を両立するお勧めモード	平坦な道や緩やかな坂道などで使います。
オートエコモードプラス	かしこく節電し走行距離を伸ばすモード	できるだけ長い距離を楽に走りたいときなどに使います。
アシストオフモード	アシストをオフにできるモード	メインスイッチの機能を活かしたまま、普通自転車として走りたいときに使います。

充電あたりの走行できる距離

一充電あたりの走行距離

1 回の充電で走行できる距離の目安は、以下の表のようになります。
なお、走行できる距離は走行モードによっても異なります。

走 り か た	走行距離								走 行 条 件
	10km	20km	30km	40km	50km	60km	70km	80km	
標準パターン									標準パターンを連続して走行した場合
	強モード：50km								[勾配 7.0% (4°) の上り坂を変速ギヤ<5>で、その他を変速ギヤ<8>で走行した場合]
	標準モード：59km								
	オートエコモードプラス：75km								
4° 登坂連続パターン									勾配 7.0% (4°) の坂道を速度 10km/h で、連続して走行した場合
	強モード：17km								[変速ギヤ<5>]
	標準モード：18km								
	オートエコモードプラス：20km								

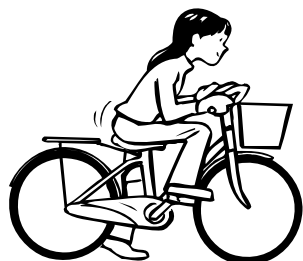
要 点

- 上記データは、新品バッテリーを常温 15 ～ 25℃ で使用し、積載重量は 65kg（乗員および荷物を合計した重量）、無風の平滑乾燥路を無灯火（無点灯）で走行したときの弊社データです。
- 同一条件下でも勾配が緩やかな走行パターン（例えば、標準パターンで勾配が 3.5%（2 度）になった場合）では、走行距離が 1.5 ～ 2.5 倍程度延びる傾向にあります。また、この傾向は、とくにオートエコモードプラスで顕著に現れます。

充電あたりの走行できる距離

走行距離に影響を与える環境

- 以下の状況で走行した場合は、走行距離が短くなります。



発進・停止の回数が多い



積載重量が重い



急な坂道が多い



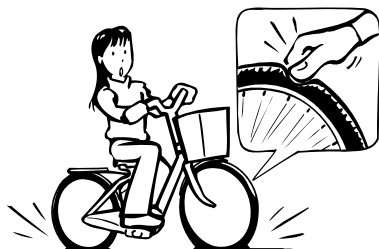
路面の状態が悪い



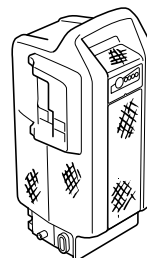
向かい風が強い



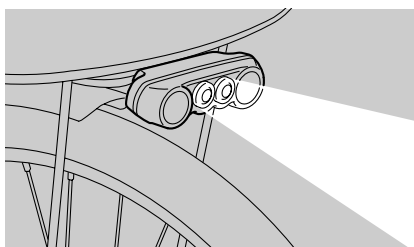
気温が低い



タイヤの空気圧が低下している



バッテリーの性能が低下している



前照灯が点灯している

整備不良の場合も、走行距離が短くなります。

走行距離が短くなる整備不良の例：

- チェーンが滑らかに動かない。
- 常にブレーキが効いている。

発進のしかた

乗る前に…

●REAL STREAM に乗る前は必ず乗車前点検を励行しましょう。
(乗車前点検の点検項目は P36 ～ 39 をご参照ください。)

1 ワイヤ錠を解錠しましょう。

⚠ 警 告

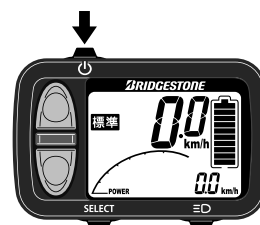
バッテリーロックのキーは必ず抜いてください。足が当たってケガをするおそれがあります。

2 ペダルに足をかけないで液晶マルチファンクションメーターの電源を入れます。

要 点

- 液晶マルチファンクションメーターの電源を入れてすぐに(約2秒以内)走行を開始すると、アシストが弱くなる場合があります。また、走行中に液晶マルチファンクションメーターの電源を入れたときも同様に、アシストが弱くなる場合があります。(いずれも故障ではありません。)ペダルから足を離した状態で再度電源を入れなおし、少し待ってから(約2秒後)走行を開始してください。
- 液晶マルチファンクションメーターの電源を入れたときは、常に走行モードは標準モードになります。
- メインスイッチの電源が入った状態で5分間以上ペダルに踏力がかからない場合、バッテリー消費を軽減するために自動的に電源が切れる機能を備えています。自動電源オフ機能が作動した後もメインスイッチの電源ボタンを押すと、再び電源が入ります。

電源ボタン



3 バッテリー残量メーターの表示を確認します。(P41)

発進のしかた

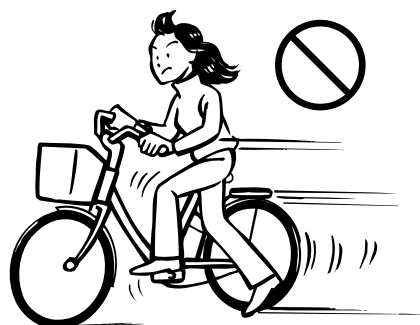
4 スタンドを上げ、サドルにまたがり、ペダルをゆっくり踏み込みます。

スタンドを上げてからサドルにまたがり、ペダルに片足を乗せ発進の準備をします。走り出す前に前後左右の安全を確認、発進の合図をしてからペダルをゆっくり踏み込みます。パワーアシストシステムは踏み込んだ瞬間から作動します。走行中パワーアシストシステム作動時はモーターが回転しているため、モーター音がします。



⚠ 警告

- けんけん乗り（片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた）はしないでください。転倒や接触によるけがのおそれがあります。
- 空き地や公園など安全な場所でよく練習し、パワーアシストの特徴に十分に慣れてから一般道路でお願いします。また、慣れるまでは「標準モード」でスタートしましょう。



⚠ 注意

パワーアシストシステム作動中に後進すると、重い場合があります。一旦、ペダルから足を離して数秒間待ってください。通常に後進できます。

要 点

メインスイッチの電源入切にかかわらず、停止した状態からペダルをお好みの位置に合わせるため、ペダルを逆回転させてから正回転側に踏み込むと「カチッ」と音が出ます。これはパワーアシストシステムのワンウェイクラッチ（フリー機構）が働いたもので異常ではありません。

変速のしかた

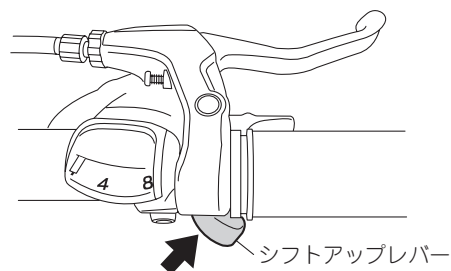
変速レバーの使いかた

1 走行中にペダルをこぐ足を止めます。

2 変速レバーを以下のように使用して、シフト位置を切り替えます。

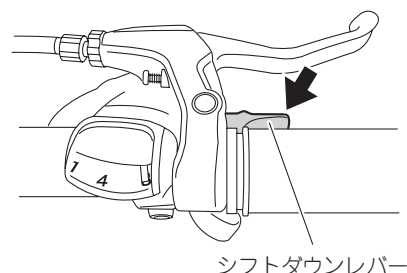
- シフトアップレバーを押すとシフトアップします。

< 1 > → < 2 > → < 3 > → < 4 > → < 5 > →
< 6 > → < 7 > → < 8 >



- シフトダウンレバーを押すとシフトダウンします。

< 8 > → < 7 > → < 6 > → < 5 > → < 4 > →
< 3 > → < 2 > → < 1 >



⚠ 警告

交通が激しくない場所など安全な状況で操作してください。
変速レバーの操作は走行中に行いますので、シフト操作に気をとられ前方不注意になるおそれがあります。

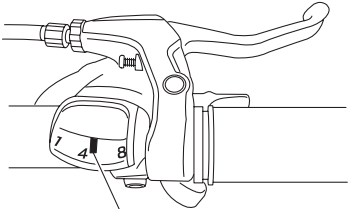
要 点

ペダルをこいでいるときは変速レバーを操作しても変速できないことがあります。
無理に変速操作を行うと、異音がしたり変速装置が故障する可能性があります。上り坂を走行する際は、坂の手前で変速するようにしましょう。
充分練習し、変速操作になれておきましょう。

変速のしかた

道路状況に合わせて早めに変速し、適切なシフト位置で走行しましょう。

適切なシフト位置

走行状況の例 (ギヤの重さ)	スタート時、低速走行時、 上り坂、向かい風 (軽くしたいとき) ←	高速走行時、 下り坂、追い風 (重くしたいとき) →
シフト位置 (シフトレバーの表示)  シフト位置	1 2 3 4 5 6 7 8	

液晶マルチファンクションメーターの表示

液晶マルチファンクションメーターの表示

液晶マルチファンクションメーターのマルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

- 走行モード表示
- スピードメーター
- バッテリー残量メーター
- パワーメーター
- 機能表示
- 自己診断機能

マルチファンクション
ディスプレイ

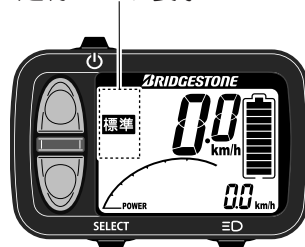


走行モード表示

走行モード表示は、選択されている走行モードを表示します。

- 走行モード表示の
 - “強”が表示されているとき、走行モードは強モードです。
 - “標準”が表示されているとき、走行モードは標準モードです。
 - “オートエコ”が表示されているとき、走行モードはオートエコモードプラスです。
 - 表示がないとき、走行モードはアシストオフモードです。

走行モード表示



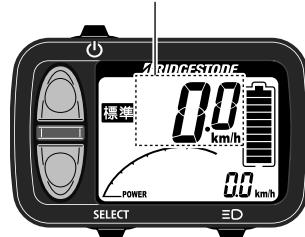
スピードメーター

スピードメーターは、走行速度（時速）を表示します。

要 点

走行速度が時速 0.5km に満たない場合は、スピードメーターは、“0.0km/h” と表示します。

スピードメーター

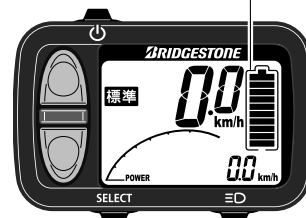


液晶マルチファンクションメーターの表示

バッテリー残量メーター

バッテリー残量メーターは、バッテリー残量の目安を 11 段階で表示します。(P41)

バッテリー残量メーター



パワーメーター

パワーメーターは、走行中のアシスト力の目安を 8 段階で表示します。

パワーアシスト（電動補助）システムが作動していないとき、パワーメーターのセグメントは、一つも表示されません。パワーアシスト（電動補助）システムが作動してアシスト力が強まるほど、パワーメーターのセグメントが 1 個ずつ増えます。



パワーメーター

機能表示

機能表示は、切り替え操作をすることで以下の表示をします。

- 平均車速
- 最大車速
- トリップメーター
- オドメーター
- 残リアシスト走行可能距離
- 消費カロリー
- バッテリー残量

セレクトボタンを押すごとに、平均車速→最大車速→トリップメーター→オドメーター→残リアシスト走行可能距離→消費カロリー→バッテリー残量、というように切り替わります。バッテリー残量を表示しているときセレクトボタンを押すと、平均車速の表示に戻ります。

平均車速、最大車速、トリップメーター、消費カロリーのデータは、セレクトボタンを 2 秒以上押すことでリセットが可能です。



機能表示

セレクトボタン

液晶マルチファンクションメーターの表示

● 平均車速

電源を入れた状態で走行したときの平均走行速度（時速）を表示します。

電源を切っても、それまでのデータは残っています。

平均車速のデータをリセットするには、平均車速が表示された状態でセレクトボタンを2秒以上押します。

平均

77 km/h

● 最大車速

電源を入れた状態で走行したときの最大走行速度（時速）を表示します。

電源を切っても、それまでのデータは残っています。

最大車速のデータをリセットするには、最大車速が表示された状態でセレクトボタンを2秒以上押します。

最大

137 km/h

● トリップメーター

電源を入れた状態で走行した積算走行距離を表示します。

電源を切っても、それまでのデータは残っています。

トリップメーターをリセットして新たに積算を開始するには、トリップメーターが表示された状態でセレクトボタンを2秒以上押します。

33.1 km

● オドメーター

電源を入れた状態で走行した積算走行距離を表示します。

オドメーターが表示された状態でセレクトボタンを2秒以上押しても、オドメーターはリセットされません。

積算

157 km

● 残リアシスト走行可能距離

取り付けられているバッテリーの残量でアシスト走行ができる距離の目安を表示します。残リアシスト走行可能距離が表示された状態でアシストモードを切り替えると、アシスト走行ができる距離の目安は変化します。

残リアシスト走行可能距離が表示された状態でセレクトボタンを2秒以上押しても、残リアシスト走行可能距離のデータはリセットされません。

残り

15 km

要 点

- 残リアシスト走行可能距離は、装着するバッテリーの容量、走行状況（坂道、向かい風など）やバッテリーの劣化状態により変化します。
- アシストオフモードの場合は、**----**が表示されます。

液晶マルチファンクションメーターの表示

●消費カロリー

電源を入れた状態で走行したときの消費カロリーの目安を表示します。

電源を切っても、それまでのデータは残っています。

消費カロリーのデータをリセットするには、消費カロリーが表示された状態でセレクトボタンを2秒以上押します。

157 kcal

●バッテリー残量

取り付けられているバッテリーの残量を表示します。

バッテリー残量が表示された状態でセレクトボタンを2秒以上押しても、バッテリー残量のデータはリセットされません。

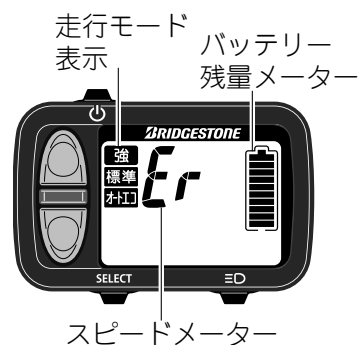
残り 33 %

自己診断機能

⚠ 警告

マルチファンクションディスプレイは、パワーアシスト（電動補助）システムのチェックも兼ねています。電源を入れたとき、パワーアシスト（電動補助）システムに故障や異常があれば、走行モード表示とバッテリー残量メーターが交互に点滅したり、スピードメーターがErと表示して、使用者に異常を知らせます。異常表示・異常点滅が起きたときは、すみやかに対処方法をご実施ください。対処方法については「マルチファンクションメーターが異常表示・異常点滅する」をご参照ください。（P76）

対処方法を実施してもなお同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。



ライト点灯のしかた

⚠ 警 告

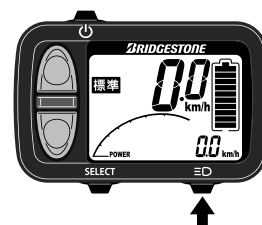
ライトスイッチの操作は走行中でも行えますが、前方不注意にならないようにしてください。

ライトの点灯のしかた

1 液晶マルチファンクションメーターの電源を入れます。



2 ライトボタンを押します。
ライトボタンを押すごとに、点灯→消灯→点灯…というように切り替わります。
前照灯が点灯すると、マルチファンクションディスプレイ（液晶画面）のバックライトも点灯します。



⚠ 警 告

夜間走行時はバッテリー残量が充分あることを確認の上、ご使用ください。前照灯はバッテリーを電源としていますので、バッテリー残量が減少してアシスト走行ができなくなった後、しばらくすると消灯します。

ライト点灯のしかた

消灯のしかた

ライトボタンを押します。

前照灯が消灯すると、マルチファンクションディスプレイ（液晶画面）のバックライトも消灯します。



要 点

- 前照灯を点灯させたまま液晶マルチファンクションメーターの電源を切ると、前照灯は消灯します。
- 前照灯が消灯した状態で液晶マルチファンクションメーターの電源を切ると、ライトボタンを押しても前照灯は点灯しません。
- アシストをオフにした状態で前照灯を使用して走るときや、押し歩きをしながら前照灯を使用するときは、電源を切らずに走行モードをアシストオフモードに切り替えてください。
- 前照灯の取付角度を上下に調整する必要がある場合は、販売店にご相談ください。

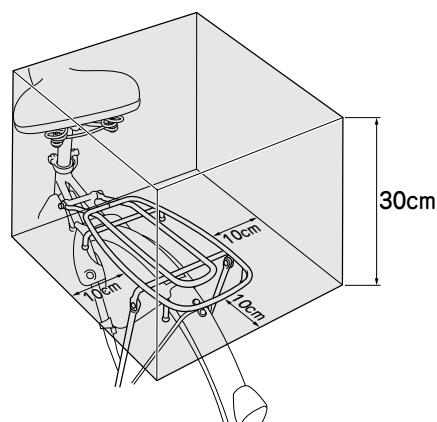
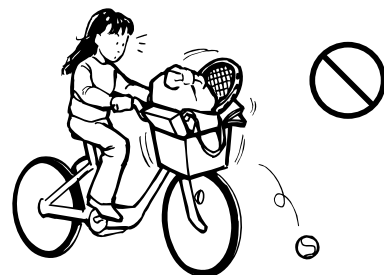
荷物の積載

荷物の積みすぎには注意しましょう。

REAL STREAM の最大積載重量（乗員の体重と積載重量の合計）は 90kg です。また、フロントバスケットおよびリヤキャリアの最大積載重量と積載物の大きさの限度は下表のとおりです。荷物を積みすぎるとバッテリーに過大な負荷をかけるために走行できる距離が短くなります。常時積載重量が大きい状態で使用すると、タイヤなどの部品の消耗が早くなります。

⚠ 警 告

- 荷物の積みすぎは走行安定性を著しく低下させ危険です。また、はみ出した荷物は歩行者や自動車などに接触するおそれがあり、危険です。最大積載重量および積載物の大きさ限度をこえないようにしてください。
- フロントバスケットまたはリヤキャリアに荷物を積むときは、左右のバランスを考慮して積んでください。また、荷物がずれたり動いたりしないよう、確実に固定してください。荷物が動いて自転車が不安定になると、転倒などの事故につながるおそれがあります。
- 個人差がありますので、表記の積載条件の範囲内であっても、運転に不安を感じる場合は、使用しないでください。



最 大 積 載 重 量	フロント バスケット	3kg まで ※専用のオプションフロント キャリア装着時
	リヤキャリア	18kg まで ※専用のオプションリヤキャ リア装着時
積 載 物 の 大 き さ 限 度	幅	リヤキャリアの左右 それぞれ 10cm
	長さ	リヤキャリア後端から 10cm
	高さ	リヤキャリアから 30cm

- 専用のオプションキャリア（フロント、リヤ）があります。必要な場合は販売店にお求めください。
- 専用のオプションリヤキャリア以外の大きな容量のリヤキャリアに取り替えても、自転車の積載量は上記のとおりです。上記を超える荷物を積載すると、自転車が壊れやすくなったり走行安定性が著しく低下します。

⚠ 注 意

チャイルドシートは取り付けできません。

アシストが作動しない環境

こんなときはパワーアシストシステムは作動しません。

- 時速 24km 以上のスピードで走っているとき
- ペダルをこがないとき
- バッテリー残量がなくなったとき
 - 液晶マルチファンクションメーターのバッテリー残量メーターが速い点滅（0.2 秒毎）をしてお知らせします。
 - バッテリーのバッテリー残量ランプが残り 1 灯で速い点滅（0.2 秒毎）をしてお知らせします。
- 液晶マルチファンクションメーターの電源が入った状態で 5 分間以上ペダルに踏力がかからなかったとき

要 点

液晶マルチファンクションメーターの電源が入った状態でも 5 分間以上ペダルに踏力がかからない場合、パワーアシスト（電動補助）システムの回路は自動的に切れます（液晶マルチファンクションメーターの液晶画面も消灯します）。復帰させるときは、再度、電源を入れなおしてください。

- 走行モードがアシストオフモードのとき（P44）



駐輪のしかた

- 1 自転車を停車させます。**
自転車が完全に停止してから、ブレーキを握ったままゆっくりと降車し、平坦で安定のよい場所に自転車を停車させます。
サドルをもってスタンドを立てます。

⚠ 警告

駐輪するときは、平坦で硬い路面に駐輪してください。また、駐輪後に自転車から離れるときは、自転車が安定して動かないことを確認してください。
傾いた路面や、砂利などの柔らかな路面に駐輪すると、自転車が動き出したり、転倒したりして事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 走行直後のブレーキローター部に手を触れないでください。
ブレーキを頻繁に使用した場合、ローター部が高温になることがあります。
- スタンドを立てたら、必ずロックレバーがかかっていることを確認してください。

- 2 液晶マルチファンクションメーターの電源を切ります。**
液晶マルチファンクションメーターの電源ボタンを押して、電源を切ります。

要 点

REAL STREAM は前進に比べ後進時はわずかに重くなります。

- 3 ワイヤ錠をかけましょう。**
駐輪時や保管時には、盗難予防のために必ずワイヤ錠をかけましょう。

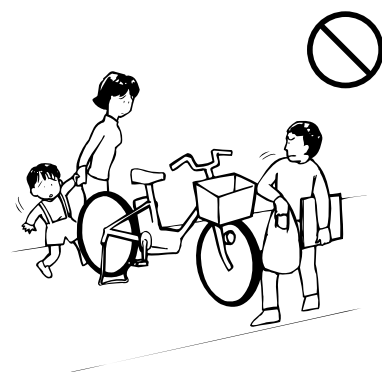
要 点

駐輪は必ず決められた場所へ

- 駐輪は、歩行者や自動車の迷惑にならない場所を選びましょう。
- 駐輪禁止の場所には停めないでください。
- 駐輪時は盗難予防のため、必ずワイヤ錠をかける習慣をつけましょう。
- 予備キーは紛失しないように別の場所に大切に保管してください。

液晶マルチファンクションメーターの電源は切ってください

- 液晶マルチファンクションメーターの切り忘れは、バッテリーの放電をはやめます。このため次回乗車時に充電不足によりパワーアシストシステムが作動しなくなることがあります。



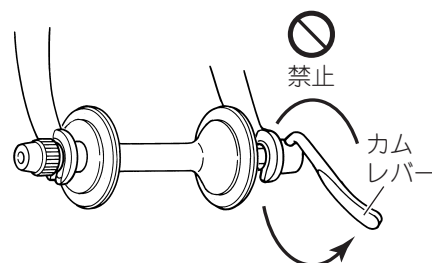
クイックリリースハブ車輪の取り付けかたと取り外しかた

クイックリリースハブはカムレバーを開閉して「締め」「ゆるめ」をおこなう構造になっています。カムレバーを閉じるとハウジングが内側に動き、この力でフレームに車輪を固定します。

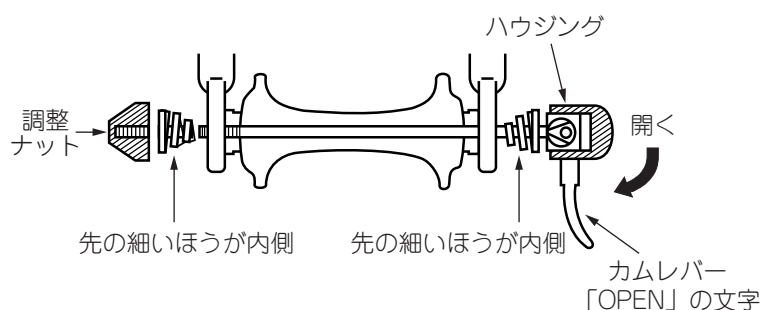
⊘ 禁止

クイックリリースハブは絶対にカムレバーを回して締め付けしないでください。

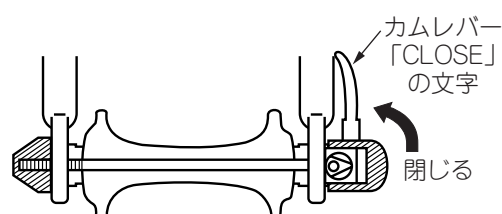
回して締め付けると十分な固定力が得られず走行中に車輪が外れて事故・けがのおそれがあり非常に危険です。



【カムレバーを開いた状態】



【カムレバーを閉じた状態】

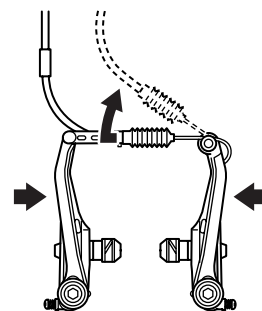


クイックリリースハブ車輪の取り付けかたと取り外しかた

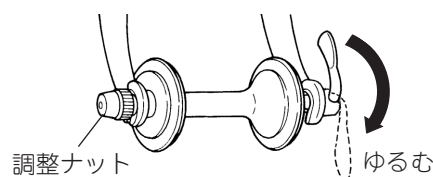
車輪の取り外しかた

- 1 <Vブレーキの場合>
ブレーキの左右アーチをリムに押えつけ、フックからワイヤを外して、ブレーキアーチを開きます。

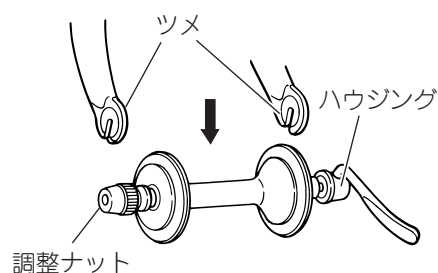
<ディスクブレーキの場合>
特に何も行いません。



- 2 レバーを開いて車輪の固定をゆるめます。

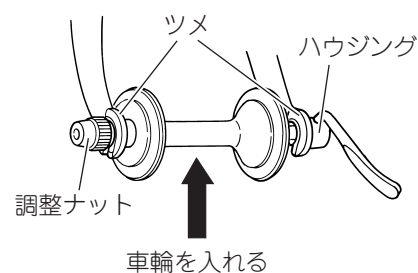


- 3 車輪をフレーム・前ホークから外してください。
車輪をフレーム・前ホークから外しにくいときは、調整ナットを2～3回転ゆるめてください。

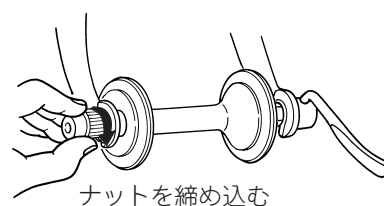


車輪の取り付けかた

- 1 ロックナットとハウジングの間にツメが簡単に入るまで調整ナットをゆるめます。
- 2 車輪をツメに入れます。
<ディスクブレーキの場合>
・ディスクローターをブレーキパッドにぶつけないように注意して、車輪をツメに入れます。



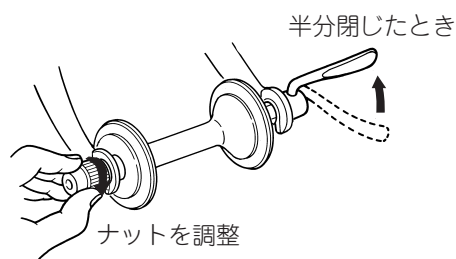
- 3 レバーを開いたままにして、調整ナットおよびハウジングがともにすきまがなくなるまで調整ナットを締め込みます。



クイックリリースハブ車輪の取り付けかたと取り外しかた

車輪の取り付けかた（つづき）

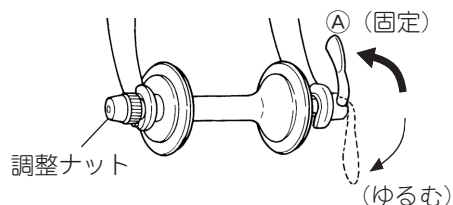
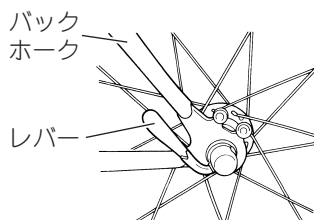
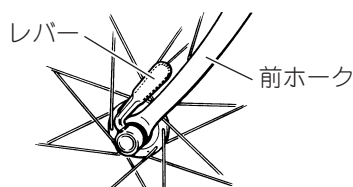
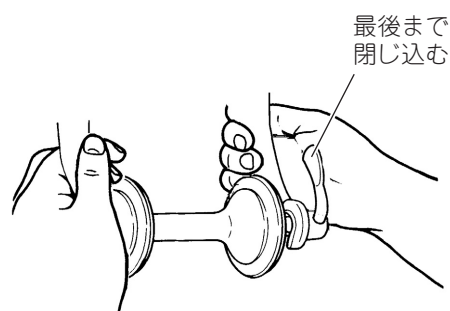
4 レバーを半分閉じたときレバー操作が固くなり始めるように調整ナットを調整します。



5 レバーを最後まで閉じ込んで固定します。
レバーを閉じ込んだとき手のひらが多少痛くなる程度 {押しつける力は160～200N(16～20kgf)} に調整ナットを調整してください。

▲ 注意

- レバーを①の位置まで操作したときに十分固定できることが重要です。もし、レバーが固すぎたり、ゆるすぎて固定が十分でない場合は危険ですから再調整してください。
- レバーは必ず前後輪とも乗車して左側になるようにしてください。
- レバーは閉じ込んだとき前ホークおよびバックホークに横から見てほぼ平行にそわせてください。



6 車輪が確実に固定されているか必ず確認してください。

7 <Vブレーキの場合>

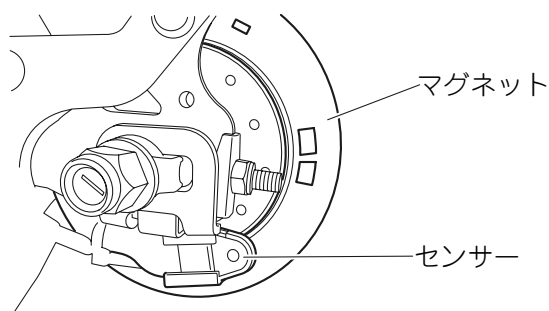
ブレーキのセンターワイヤを取り外したときの逆の手順で左右アーチに取り付け、ブレーキレバーを引いたときに正常に作動するか確認してください。

<ディスクブレーキの場合>

ブレーキレバーを引いたときに、正常に作動するか確認してください。

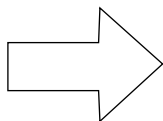
車速センサーについて

車速センサーは、後輪に装着されているマグネットと車体に装着されているセンサーで構成されていて、走行時に後輪と同時に回転するマグネットの回転速度をセンサーが感知し、走行速度を読み取っています。そして走行速度からアシスト力を出力するように設定していますので、どの変速位置で走行していても、最適なアシスト力が発揮されます。

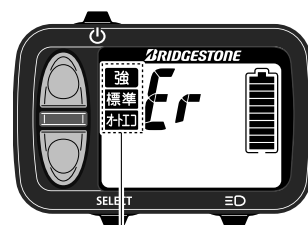


車速センサーが正しく機能できていない場合

走行するとメインスイッチのモードランプ（「強」「標準」「オートエコ」のいずれか）が点滅し、アシスト力が弱くなります。



販売店にご相談ください



モードランプ（「強」「標準」「オートエコ」のいずれか）が点滅

サスペンションホークの取り扱いについて

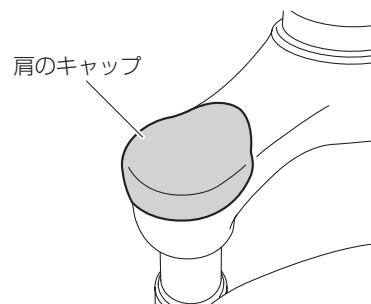
プリロードアジャスターの使いかた

標準装備のサスペンションホークの左右の肩にはプリロード（初期荷重）調整アジャスターを装備しております。調整はお客様の好みにより、以下のように行ってください。

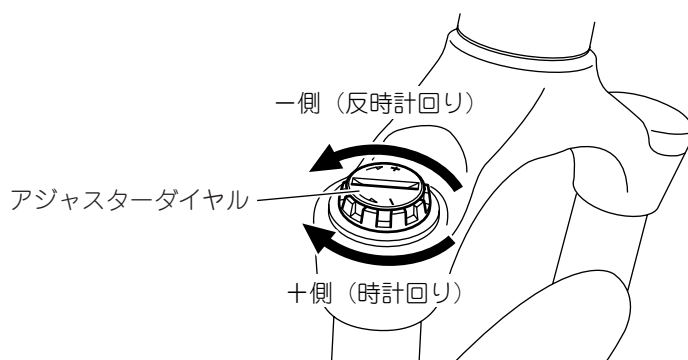
⚠ 警告

プリロードアジャスターは自転車を停車させた状態で調整してください。

サスペンションホークの左右の肩上部にあるキャップを外し、硬貨を使用してアジャスターダイヤルを回して調整します。調整後は外したキャップを元通りに取り付けます。



- アジャスターダイヤルの回転数は左右とも同じになるよう調整します。
- 十側（時計回り）に回すと、プリロードが高くなり、サスペンションの動き出しが硬くなります。
- 一側（反時計回り）に回すと、プリロードが低くなり、サスペンションの動き出しがやわらかくなります。



⚠ 注意

アジャスターダイヤルは十側一側とも回転が止まるまでが調整範囲です。ダイヤルが止まったら無理に回さないでください。

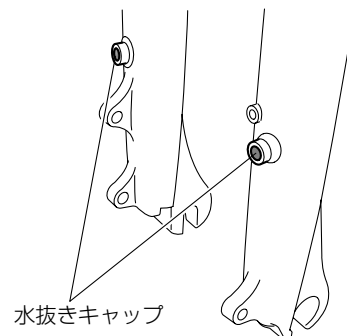
サスペンションホークの取り扱いについて

お手入れについて

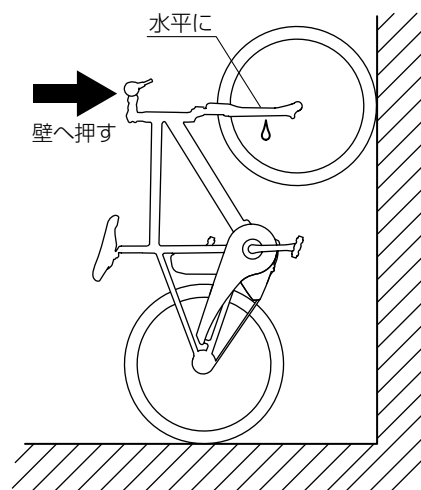
雨天走行後には、サスペンションホーク内部の水抜きをしてください。

以下の順序で水抜きを行ってください。

- 1 ホーク後側の水抜きキャップ（左右）を外してください。



- 2 REAL STREAM を立て、サスペンションホークが水平になるように前輪を壁に当てます。ハンドルを 10 回くらい押してサスペンションホークを作動させます。水がたまっている場合は、水抜き穴から排出されます。



- 3 水抜きキャップを元にもどしてください。

お手入れのしかた

各部のお手入れ

▲注意

水洗いについて

REAL STREAM は日常防水性能を備えていますが、スチーム洗車をしたり水道ホースでの洗車など直接圧力のかかることはしないでください。直接パワーアシストシステム部やバッテリー部にかけて、すきまからパワーアシストシステム構成部品の内部に水が入り、故障の原因となることがあります。万一、パワーアシストシステム機構が水に浸かった場合は、販売店で点検を受けるようにしましょう。



●金属部のお手入れ

スポークなどの金属部は、防錆剤を布に吹きつけてふきます。

▲警告

ブレーキの制動面やタイヤ、リムなどに防錆剤やワックスなどの油脂類を付着させないでください。油脂類が付着するとブレーキのききが悪くなり、衝突・けがのおそれがあります。

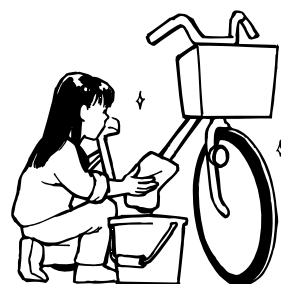


●フレームなどの金属塗装部のお手入れ

金属製の塗装された部分は、汚れをしっかりと取り除き乾いたタオルに少量のワックスをつけてみがきます。油は光沢をなくしますので、塗装部にはつけないでください。

▲注意

タイヤ・ブレーキシューなどのゴム類には絶対にワックスを付着させないでください。(ワックスなどでタイヤをみがくとヒビ割れの原因となります。)

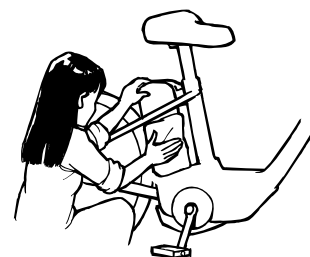


●バッテリー部のお手入れ

バッテリーケースの汚れは、水を含ませ固く絞ったタオルなどでふき取るようにしましょう。ホースなどで直接水をかけたりしないでください。

▲注意

底部の接点をヤスリで磨いたり、針金などでそうじしないでください。故障の原因となるおそれがあります。



お手入れのしかた

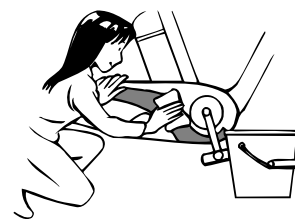
各部のお手入れ（つづき）

●樹脂カバー類のお手入れ

樹脂製のカバー類は、水を含ませ固く絞ったタオルなどで汚れを取り除きます。

⚠ 注意

ガソリン、灯油、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などを付着させないでください。ヒビ割れなどの原因になります。



●アルミ製リムのお手入れ

アルミ製リムに泥や砂が付着したら、ふき取ってください。（油など汚れのない布を使用してください。）

⚠ 注意

アルミ製リムはステンレス製リムに比べて傷つきやすいので、泥や砂が付着したままだと、キャリパーブレーキ（後ブレーキ）作動時にリムが削れたり、リムが汚れやすくなります。

お手入れのしかた

お手入れのしかた

⚠ 警告

ブレーキの制動面やタイヤ、リムには注油しないでください。ブレーキが効かなくなり、衝突・けがのおそれがあります。

⚠ 注意

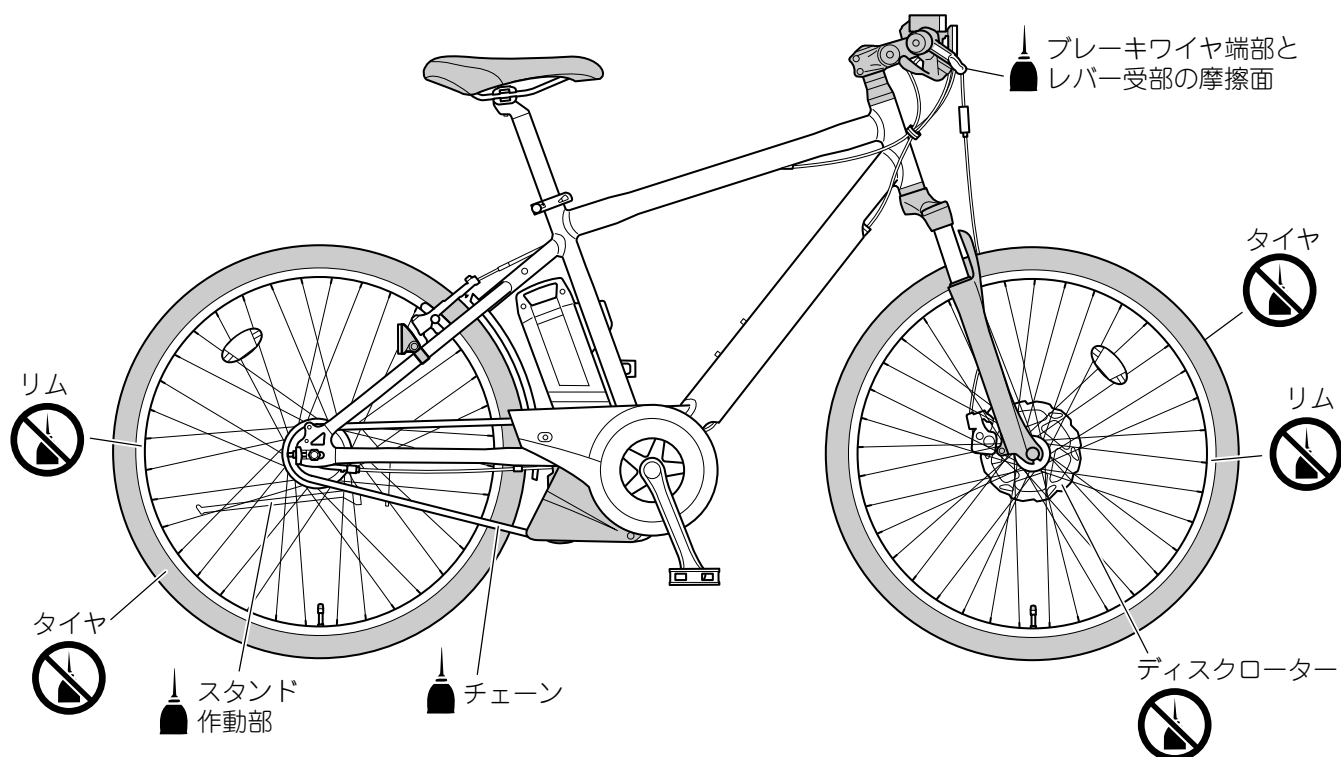
- 注油は決められた場所に少量を注油します。多すぎると、ホコリを付着させ、故障の原因になります。
- 注油は機械用油（潤滑剤）を使用してください。食用油は使用しないでください。



マークは注油場所を示します。



マークは注油禁止場所を示します。

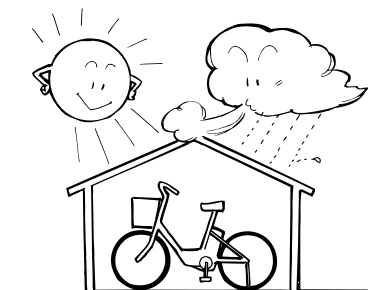


保管のしかた

日々の保管のしかた

●保管場所は慎重に選びましょう。

- 平坦で安定のよいところ
- 風通しがよく、湿気のないところ
- 雨つゆや直射日光が当たらないところ



●液晶マルチファンクションメーターの電源を切りましょう。

⚠ 注意

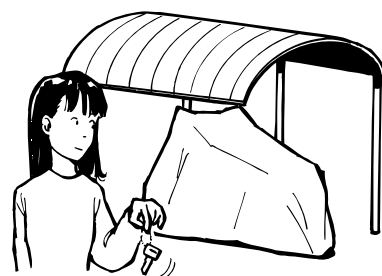
液晶マルチファンクションメーターの電源の切り忘れは、バッテリーの放電をはやめます。このため次回乗車時に充電不足によりパワーアシストシステムが作動しなくなることがあります。

●ワイヤ錠をかけましょう。

保管するときは、いたずらや盗難を予防するために必ずワイヤ錠をかけましょう。

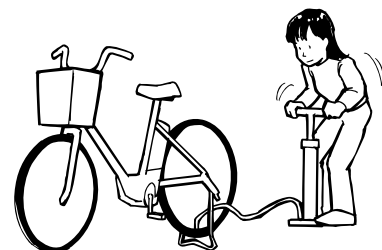
●自転車にカバーをかけましょう。

保管するときは、ほこりや水を防ぐために専用サイクルカバー（別売）をかけましょう。



●タイヤに十分な空気を入れましょう。

保管するときは、タイヤの傷みを防ぐために十分な空気を入れましょう。

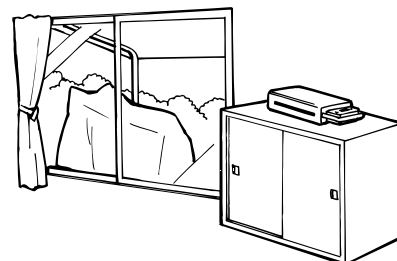


保管のしかた

長期間保管するときのバッテリーの取り扱い

長期間（1 か月以上）REAL STREAM を使用しないときは、以下の要領でバッテリーを保管してください。

- 車両から取り外し、室内の涼しく（10 ～ 20℃）湿気のない場所で保管してください。



▲ 注 意

車両から取り外しておく場合、車両側のバッテリー装着部にほこりなどが付着しないよう、また端子などに水滴がついて錆びないように、サイクルカバー（別売り）をかけましょう。

- バッテリーの残量を 1 ～ 2 灯の状態にして保管ください。
- 月に一度はバッテリー残量を確認してください。
1 灯点滅になっていれば 10 分程度充電し、残量が著しく低下しないようにしてください。

要 点

- バッテリーは「満充電」または「空」の状態で放置すると消耗が早まります。
- 保管時も自己放電によりわずかずつ放電し、容量が低下します。

長期間保管して再使用するとき

長期間（1 か月以上）保管して再び使用する場合は、使用する前日に必ず充電をしてから乗るようにしましょう。（通常の充電よりも若干時間がかかる場合があります。）
また 6 か月以上保管して再び使用する場合は、販売店で点検・整備（有料）をお受けになってからご使用ください。

自転車を廃棄するとき

- 自転車を廃棄するときは、各地区のゴミ分別や回収のルールに従ってください。
- バッテリーは資源リサイクル可能です。寿命がきて使用済みになったバッテリーは販売店で回収・リサイクルしてもらってください。

もしもこんなときは

ペダルが重い・アシストしない

症状および確認内容	対処方法	ページ
液晶マルチファンクションメーターの電源は入っていますか？	電源を入れてください。	48
オートエコモードプラスになっていませんか？	オートエコモードプラスの特徴です。平らな道や下り坂など、ペダルを踏む力が弱くなると、アシストが停止します。 ⇒ 必要に応じて標準モードまたは強モードに切り替えてください。	45
アシストオフモードになっていませんか？	液晶マルチファンクションメーターの走行モード切替ボタン（アシストアップ）を押して、走行モードを切り替えてください。	45
バッテリーは確実に取り付けられていますか？	充電済のバッテリーを確実に取り付けてください。	31
バッテリー残量メーターは0（ゼロ）の速い点滅をしていませんか？	バッテリーの容量が0（ゼロ）です。充電をしてください。	32
タイヤの空気圧が低くありませんか？	自転車用空気入れを使用し、適切な空気圧まで空気を入れてください。	38
液晶マルチファンクションメーターの電源を入れてから、5分以上ペダルに踏む力をかけない状態が続いていませんか？	自動電源オフ機能が作動しました。再度、電源を入れなおしてください。	48
気温が高いところで使用していませんか？ または走行負荷が大きい走りかた（長い坂道や重い荷物を積載）をしていませんか？	バッテリーまたはドライブユニットの温度が上がったための制御で、異常ではありません。温度が下がれば回復します。REAL STREAMへの負荷を軽くし、バッテリーやドライブユニットを少し休ませてから再度使用してください。 ⇒ 通常使用している変速位置よりシフトダウンしてご利用いただくと、症状がでにくくなります。（例：＜2速＞→＜1速＞）	50
気温が低いところで使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。また、バッテリーを温度が10～20℃の屋内で保管しておいて使用すると、この症状を軽くすることができます。	—
液晶マルチファンクションメーターが異常表示や異常点滅をしていませんか？	「液晶マルチファンクションメーターが異常表示・異常点滅する」をご参照ください。	55
走行中に液晶マルチファンクションメーターの表示が全て消灯した。	パワーアシストシステム内部のトラブルが考えられます。ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	—
電源ボタンを押しても電源が入らない。		



もしもこんなときは

走行距離が短い

症状および確認内容	対処方法	ページ
バッテリーは満充電されていますか？	満充電になるまで充電してください。 バッテリーが十分充電できていないと、走行距離が短くなります。ただし、バッテリーが満充電されていてもバッテリー寿命によってバッテリー容量が低下している場合は、走行距離が短くなります。	33 42
タイヤの空気圧は適正ですか？	適正な空気圧になるようにタイヤに空気を充填してください。 タイヤの空気が減っていると、走行抵抗が大きくなり、走行距離が短くなります。	38
重い変速位置ばかりの使用や、坂道での連続使用をしていませんか？	平地、坂道等の走行条件に合った走行モードと変速シフト位置でご利用ください。 高負荷運転となり、バッテリー消費が早くなります。	45
温度が高いところや低いところで使用していませんか？	気温が適温（15～25℃）になると回復します。 真夏や真冬はバッテリー性能が落ちることがあります。 特に冬場は使用される直前まで、バッテリーを室内などの温かい場所に保管されることをお勧めします。	23
車輪はスムーズに回りますか？	乗車前点検を実施し、調整が必要な場合は、お買い上げ販売店にご相談ください。 前後ブレーキが掛かった状態など、車輪がスムーズに回らない場合は、走行抵抗が大きくなり、走行距離が短くなります。	36～39
信号や交差点等、発進、停止を多く繰り返していませんか？	発進時には大きな電力を使用するため、バッテリー消費が早くなります。	—
バッテリーが消耗していませんか？	一充電当たりの走行距離が著しく短くなり、回復する兆しがない、また上記に該当しない場合は、バッテリー交換時期といえます。バッテリーを交換してください。	24～25

もしもこんなときは

充電できない

症状および確認内容	対処方法	ページ
電源プラグはしっかり接続されていますか？ また、バッテリーは確実に接続されていますか？	もう一度、接続をやりなおして充電してください。	32
充電器の充電ランプは点灯していますか？	もう一度、接続をやりなおして充電してください。	32
バッテリーのバッテリー残量ランプは点灯していますか？		
充電中に、充電器の充電ランプが緑色に点滅し、バッテリーのバッテリー残量ランプが 4 灯同時に点滅する。 <div> <ul style="list-style-type: none"> ● 緑ランプ点灯 充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅 充電待機 ● 赤ランプ点滅 異常  </div>	故障ではありません。バッテリー内部の温度が過度に高いか、または過度に低くなっていて、充電待機の状態です。バッテリー内部温度が充電に適した温度になると充電が開始されます。	33
バッテリーを充電器に接続したとき、充電器の充電ランプが緑色に点滅し、バッテリーのバッテリー残量ランプの 1 灯目が点滅する。 <div> <ul style="list-style-type: none"> ● 緑ランプ点灯 充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅 充電待機 ● 赤ランプ点滅 異常  </div>	故障ではありません。充電開始前の準備状態です。しばらくすると充電が開始されます。	33

異音・異臭あるいは煙がでる




症状および確認内容	対処方法	ページ
パワーアシスト機構から普段と異なる音や異臭、煙がでる。	ご使用を中止してただちにメインスイッチの電源を切り、販売店で点検をお受けください。	—
充電器から異音や異臭、煙がでる。	充電を中止してただちに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検をお受けください。	32

もしもこんなときは


充電器が熱い

症状および確認内容	対処方法	ページ
手で触れることができる程度。	充電中は多少の熱（約 40 ～ 60℃）を持ちますが、故障ではありません。	—
手で触れることができないほど熱い。	使用を中止してただちに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検をお受けください。	—

バッテリー残量メーター／バッテリー残量ランプが表示しない


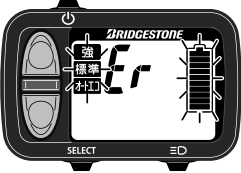

症状および確認内容	対処方法	ページ
アシストはするが、液晶マルチファンクションメーターのバッテリー残量メーターが消灯している。	バッテリーを取り外し、バッテリーの接続端子を乾いた布や綿棒で清掃してください。清掃後、バッテリーを取り付けてください。	30
充電したが、液晶マルチファンクションメーターのバッテリー残量メーターが“FL”表示しない。	温度が 15 ～ 25℃ の屋内で、もう一度充電してください。	23
充電終了後、バッテリーのバッテリー残量表示ボタン“  ”を押してもバッテリー残量ランプが全部点灯しない。	再度、接続しなおして充電してください。 ⇒ 充電の途中で、電源プラグまたはバッテリーが抜けたおそれがあります。	32
バッテリーのバッテリー残量表示ボタン“  ”を押してもバッテリー残量ランプが表示しない。	故障ではありません。新品または長期保管されたバッテリーは、バッテリーのバッテリー残量表示ボタン“  ”を押しても表示しません。充電すると表示します。	—

バッテリー残量ランプが異常表示・異常点滅する





症状および確認内容	対処方法	ページ
 <p>4灯同時速い点滅 <0.1秒間隔></p>	<p>バッテリーを充電器に接続してから約 2 秒間、バッテリー残量ランプが 4 灯同時に速く点滅（約 0.1 秒間隔）し、その後充電中の表示に切り替わる。</p> <p>故障ではありません。長期使用のお知らせ機能が作動しています。引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合はバッテリーの交換時期です。販売店でバッテリーを交換してください。</p>	24

もしもこんなときは

マルチファンクションメーターが異常表示・異常点滅する

症状および確認内容	対処方法	ページ
	マルチファンクションメーターに“Er”と表示される。	55
	走行モード表示とバッテリー残量メーターが交互に点滅する。	
 <p>走行モード</p>	<p>選択されている走行モードの表示が点滅する。</p> <p>エラー信号またはパワーアシストシステム内部のトラブルが考えられます。自動的にすべてのランプ類が消灯するまで5分間放置してください。消灯を確認した後、再度電源を入れてください。電源を入れなおしても同じ症状が出る場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。</p> <p>スピード（車速）センサーが正しく信号を検出できない状態が続くと点滅します。しばらく走行を続けるか、電源を入れなおしてください。同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。</p>	55

充電中にランプが異常点滅する

症状および確認内容	対処方法	ページ
<ul style="list-style-type: none"> ● 緑ランプ点灯・・・充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅・・・充電待機 ● 赤ランプ点滅・・・異常 	充電中に、充電器の充電ランプが赤色で点滅し、バッテリーのバッテリー残量ランプ 1 灯目と 4 灯目が同時に点滅する。	—
<ul style="list-style-type: none"> ● 緑ランプ点灯・・・充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅・・・充電待機 ● 赤ランプ点滅・・・異常  	<p>充電中に、充電器の充電ランプが赤色で点滅し、バッテリーのバッテリー残量ランプ 1 灯目と 3 灯目、2 灯目と 4 灯目が点灯し、交互に点灯と消灯を繰り返す。</p> <p>接続端子の接触不良が考えられます。バッテリーを一旦充電器から取り外し、バッテリー残量表示ボタン“”を押してバッテリーの残量をご確認ください。4 灯全ての点灯ではないことを確認してから、再度バッテリーを充電器に取り付けてください。</p>	—

定期点検／普通自転車点検整備済み TS マーク

定期点検

点検・整備は販売店で、自転車安全整備士・自転車技士（自転車組立整備士）、またはそれと同等の技能を有する者により受けてください。

●初回（2ヶ月または100km走行後）点検

お買いあげいただいた REAL STREAM は工場では厳密な検査を施した後に出荷されていますが、まれに使用後 1～2 か月の間に、ボルトなどのゆるみが生じることがあります。この期間内に、お買いあげいただいた販売店に REAL STREAM と保証書／点検・整備の記録をお持ちの上、点検・整備を受けてください。また、使用状況などにより部品の交換が必要な場合は、有料となることがありますので、あらかじめご相談ください。
尚、点検整備は有料です。

●定期点検

いつまでも REAL STREAM を大切にお乗りいただくために、異常を感じたら、またはお買いあげいただいてから 6 ヶ月、12 ヶ月、その後は 1 年毎に販売店で定期点検を受けましょう（有料）。消耗した部品や、異常箇所をそのままにしてお乗りになると大変に危険です。定期点検は人間でいえばいわば人間ドックのようなものです。定期的に点検をすることで、REAL STREAM の優れた性能をいつまでも引きだしていただけます。また、定期点検を実施していない場合には保証の適用を受けられないことがありますので、あらかじめご了承ください。

⚠警告

- ブレーキは最も重要な機構です。乗車前点検に加え、定期的に販売店での点検を受けるようにしてください。
- ブレーキワイヤについては異常がなくても、2 年毎に交換してください。

普通自転車点検整備済み TS マークについて（新車には貼付されていません）

自転車安全整備店で点検整備を行い、基準に適合した安全な自転車に TS マーク（青色 TS マーク・赤色 TS マークの 2 種類があります）を貼ることができます。（有償です）

このマークには、傷害補償と賠償責任補償、被害者見舞金（赤色 TS マークのみ）が付帯されており、万一の事故の際に利用することができます。詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

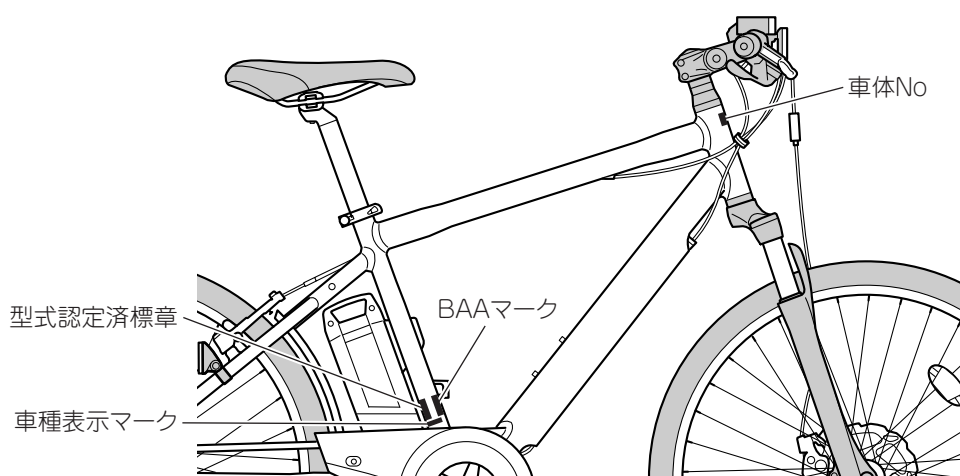


保証制度／基準適合標章（TS マーク）

保証制度

お買い上げいただきました REAL STREAM を構成する純正部品に、材質または製造上による不都合が生じた場合は、消耗部品を除き保証書に示す条件に従い、その部品の交換または補修により無料で修理を行います。詳しくは保証書をご覧ください。


マークの貼付・表示位置



- ※ 型式認定済標章と車種表示マークはバッテリーを外さないと読めません。
- ※ 車体 No（番号）は、防犯登録する時に使います。

型式認定済標章（新車に貼付してある TS マーク）

このマークは、道路交通法の規定に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にのみ表示されるもので、安心して電動アシスト自転車としてご利用頂ける証明です。
この TS マークには、保険は付帯していません。

アリヂストンサイクル株式会社	
	
駆動補助機付自転車 形式認定番号	交
普通自転車 形式認定番号	交
防犯登録時は、ヘッドパイプ上側の 打刻番号を使用してください。	

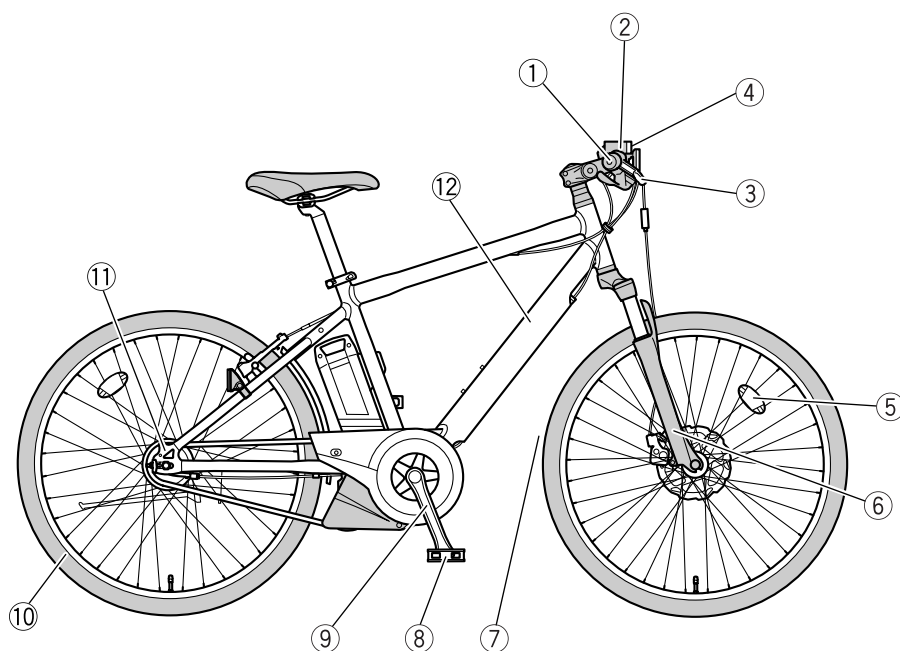
BAA マーク

REAL STREAM には「BAA マーク」が貼付されています。

BAA マークが貼付された自転車は、安全で長持ちする自転車を目指し、社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。万が一製造上の欠陥で事故が発生した場合は、製造・輸入事業者の責任で補償致します。(社団法人自転車協会が直接利用者の皆様への補償を致すものではありません。)



自転車安全基準の主な内容



① にぎり

雨天時でも、にぎりが回転したり、抜けたりしないか離脱力を確認。

② ハンドル

駐輪場で転倒してもハンドルが破損しないか、10kg のおもりを 500mm から落下させる衝撃試験により確認。

③ ブレーキ

ブレーキワイヤの切断強度 (1.5kN 以上)、繰返し強度 (15kg のおもりを 10,000 回上下) を確認。

④ 前照灯

夜間の無灯火自転車による衝突事故を防止するために、自動または手元で点灯操作ができる前照灯を装着。また、必要な明るさが確保されているか性能を確認。

⑤ リフレックスリフレクター

夜間の走行安全性を考慮し、リヤリフレクターに加えフロントリフレクター、ペダルリフレクターおよび側面 2 ケ所にサイドリフレクターの装備を義務づける。フロントリフレクターは、夜間前方 100m から反射光の視認性を確認。

自転車安全基準の主な内容（つづき）

⑥ 前ホーク

前ホークの強度を確認するために、前ホークの耐久試験（± 440N [非鉄系は± 600N] の荷重を 100,000 回）を実施。

⑦ どろよけ

前輪用どろよけが、タイヤに接触して巻き込まれることのないよう DIN（ドイツ規格）により強度を確認。

⑧ ペダル

樹脂製ペダルの強度を確認するために DIN（ドイツ規格）にならい、ペダル体引抜試験、衝撃試験を実施。

⑨ ギヤクランク

ギヤクランクの強度を確認するために、静荷重試験（1500N）、動的試験（1400N の踏力を合計 75,000 回）実施。

⑩ 車輪

車輪の強度、品質を確認するために、縦振れ、横振れの許容値（1.5mm 以下）を強化、車輪の静荷重試験（側方に 300N の静荷重）、ハブの回転摩耗試験、タイヤのリム外れ試験を実施。

⑪ 制動性能

晴天時はもちろん、雨天時にも安全円滑に停止できるよう、制動性能規定を DIN（ドイツ規格）並に強化。

⑫ フレーム

フレームの強度を確認するために JIS の耐振性試験に加えて、DIN（ドイツ規格）のフレーム動的試験を実施。

○ ねじ

粗悪なネジを排除するために、ネジの強度を確認。

* 1N（ニュートン）は、約 0.102kg の力を表します。

* DIN は、ドイツ規格協会が制定する国家規格であり、主要部品の強度・耐久性や制動性能試験、各種表示などに特徴がある。

防犯登録／盗難補償／保険について

防犯登録について

法律により防犯登録は義務づけられています。かならず実施してください。

- 制度の意義

防犯登録は「自転車の安全利用の促進および自転車駐車場の整備に関する法律第12条第3項」により義務づけられています。これは多発する自転車の盗難、さらに盗難自転車が駅前などに放置され、市民生活に支障を来す状況を改善することを目的に制定されました。

- 登録のしかた

防犯登録はお買い上げの販売店で行います。防犯登録は**有料**です。

- 自転車が盗難にあった場合

地元の警察署に盗難届けを出してください。この時防犯登録ナンバーが必要になります。防犯登録ナンバーが不明だと自転車が見つかりにくくなります。防犯登録カードは保管しておいてください。

盗難補償について

- 盗難補償を受けるためには、盗難補償書に記載の期日にまでに、次のいずれかの加入手続きが必要です。

- ①弊社ホームページから「オンライン登録」で登録する

- ②ロビンフッド手帳に記載のQRコードから携帯電話で「オンライン登録」する

- ③ロビンフッド手帳のブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）に必要事項を記入の上、投函する

- ※お買い上げ日欄が未記入であったり、不実の内容を記入された場合には盗難補償は受けられません。

- ※弊社からお客様へ、ブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）受け取り完了のご連絡は差し上げられませんのでご了承ください。

- 上記、加入手続き前に遭われた盗難に関しては、補償が受けられないのでご注意ください。

- 詳細は盗難補償書をご覧ください。

保険について

- 万が一の事故に備えて、対人対物賠償保険に加入することをおすすめします。（弊社では保険の取扱はしていません）

スペアキーについて

スペアキーのご注文は、お買い上げ店にキー No と車種をご指定の上ご注文ください。

⚠ 注 意

- ご注文からスペアキーの納品には 10 日以上かかる場合があります。
- 部品の生産終了や在庫切れにより、対応できなくなる場合があります。
- スペアキーは元のキーに対してつまみの形状などが異なる場合があります。
- お客様の自転車の車体 No などから、キー No を弊社で調べることはできません。
(弊社には 1 台ごとのキー No データはありません。)
- 紛失する前にキー No を控えておくことをおすすめします。(裏表紙)
- キー No がわからないと、スペアキーは注文できません。
- 防犯上の理由からスペアキーの対応ができない場合があります。
- 自転車のスペアキーは、一般に鍵屋さんでは作れません。

点検・整備の記録

有料 点検・整備項目

V＝異常なし A＝調整・注油 △＝修理 X＝交換 T＝締付 C＝清掃・その他

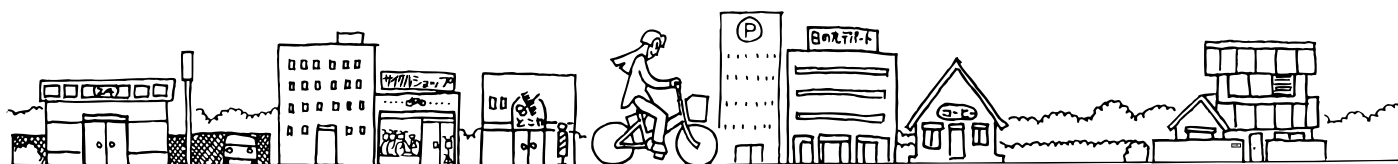
	点 検 項 目	初回	6 か月	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
車 両 本 体	車体の長さや幅、フレームと前ホークの形状と取付状態								
	ハンドルの取付状態、回転具合とがたつき								
	ブレーキ各部の作動と取付状態、注油の有無								
	ローラーブレーキの鳴き、振動の有無 (1 年毎専用グリス充てん)								
	ブレーキのききめと各部の摩耗状態、ブレーキの調整								
	ベルの取付状態と鳴り具合								
	前照灯の取付状態と機能								
	前後の車軸の締付とがたつき								
	リムの変形と振れ、スポークの変形・張り具合								
	タイヤの取付状態、摩耗、損傷、空気圧								
	ペダルとギヤクランクの取付状態と回転具合								
	フリーホイルの回転具合と注油の有無								
	チェーンの張りや摩耗、注油の有無								
	変速機の取付状態と作動								
	ロックキーの取付状態								
	前後の泥よけとチェーンカバーの取付状態								
	リフレクタ(反射板)の取付状態と汚れ、損傷 (ソーラーテールランプを含む)								
	サドルの取付状態と位置								
パ ワ ー ア シ ス ト シ ス テ ム 機 構	スタンドの取付状態と機能								
	キャリアの取付状態と位置								
	バスケットの取付状態と位置								
	パワーユニット固定用ボルトのゆるみ								
	P.A.S. 各部の取付状態と作動								
	電気配線の接続部のゆるみと損傷								
	パワーユニットからのグリス漏れ、異音の有無								
	カバー類固定用ボルトのゆるみ								
	充電コンセントの取付具合と損傷								
	バッテリー残量ランプの表示								
■実施年月日		・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・
■実施者氏名		㊞	㊞	㊞	㊞	㊞	㊞	㊞	㊞

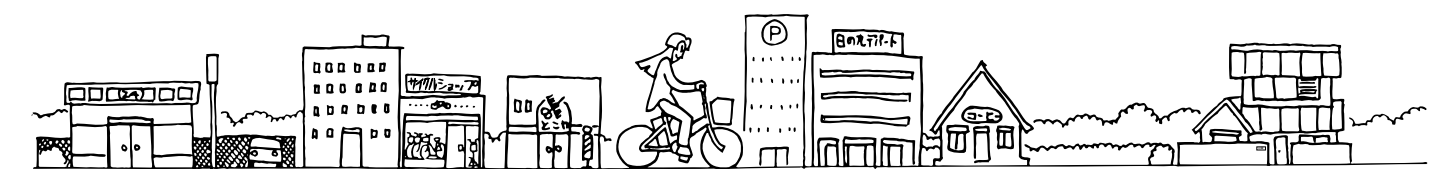
製品仕様

諸 元				REAL STREAM RS615 26 インチ
寸 法	全	長		1,750mm
	全	幅		535mm
	サ	ド	ル 高	795 ～ 950mm
	軸	間	距 離	1,115mm
	タ	イ	ヤ サ イ ズ	26 × 1.5HE
車 両 重 量				22.4kg
性 能	補 助 速 度 範 囲		比例補助	0km/h 以上～10km/h 未満
			逓減補助	10km/h 以上～24km/h 未満
	1 充電あたり	標 準 パ タ ー ン	50km※ 1	
	の 走 行 距 離	4° 登坂連続パターン	17km※ 1	
電 動 機	形 式		ブラシレス DC 式	
	定 格 出 力		240W	
補 助 力 制 御 方 式				踏力比例制御式
蓄 電 池	品 番		P5473（ブラック）	
	種 類		リチウムイオン電池	
	定 格 電 圧		25.2V	
	定 格 容 量		12.6Ah	
	T y p . 容 量		12.8Ah	
充 電 器	品 番（型 式）		P5850	
	形 式		スタンド式	
	電 源		AC100V（50Hz-60Hz）	
	消 費 電 力		140W	
	充 電 時 間		約 3 時間 30 分※ 2 ※ 3	
変 速 機 方 式				リヤハブ、内装 8 段
駆 動 補 助 装 置 の 種 類 及 び 型 式				チェーン出力方式クランカー体型
制 動 装 置			前	機械式 ディスクブレーキ
			後	V ブレーキ
照 明 装 置				バッテリーライト

- ※ 1 業界新規定の標準パターン、および 4° 登坂連続パターンで走行したときの弊社データ
バッテリー新品、気温 15 ～ 25℃、車載重量 65kg (乗員および荷物を合計した重量)、平滑乾燥路面、無風、無点灯状態で、
強モード (パワーモード) で走行。
- ※ 2 長期放置したバッテリーを充電した場合、電池の状態により充電時間が延びることがあります。
- ※ 3 お買い求めいただいた REAL STREAM に装備されているバッテリーと充電器を使用した場合のおおよその時間です。
バッテリーの種類および充電器の種類によって充電時間は異なります。

メモ



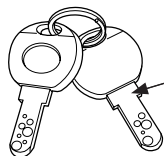


お買いあげいただいた REAL STREAM の記録

●キー No _____

※スペアキーをご注文する時にはキー No が必要ですので、お客様が記録しておいてください。

※スペアキーのご注文はお買い上げの販売店へご相談ください。



キー No はここにあります。

●防犯登録番号 _____

※防犯登録票より転記してください。

●車体 No _____

※表示場所は P78 参照。

バッテリーと充電器販売のご案内

●リチウムイオンバッテリー 8.7Ah

注文番号：P5342(ホワイト)、P5343(ブラック)

●充電器

注文番号：P5475、P5850

●リチウムイオンバッテリー 12.8Ah

注文番号：P5474(ホワイト)、P5473(ブラック)

仕様変更や共通化などにより、注文番号が変更になる場合があります。
ご購入の際は、販売店にご相談ください。

サービスの実施

お買いあげいただいた販売店が点検・修理をはじめ、サービスのご相談などをお受けいたします。

お買いあげいただいた販売店

ブリヂストンサイクル株式会社

〒362-8520 埼玉県上尾市中妻3丁目1-1

お客様相談室

受付時間：9:00～12:00／13:00～17:00

(土・日・祝日及び弊社指定休日は休み)

電話：☎ 0120-72-1911、FAX：048-772-5316

(国際電話・インターネット電話でのご利用はできません。)

IA01-199
5, E